

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【教育】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 地域に根ざす国立大学として、グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点となり、高い国際通用性を有する教育課程のもと、地域一体型教育を推進し、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の人材の育成が学位プログラムとして担保されるよう、体系的で国際通用性を有する教育課程や個々の科目の目標等を平成 30 年度までに整備し、周知・運用する。その一環として、一体的に策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて、整合性などを継続的に見直し、必要に応じて適切な改正を行う。さらに、教育の国際通用性を検証するため、全学的な教学マネジメントのもと、教育成果の検証を含めた内部質保証、国際アドバイザーによる外部評価等を実施する。大学院課程では、第 3 期中期目標期間中に、教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組と質の高い学位プログラム構築を行う。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細分化した計画には「進捗不十分」があるが、予定している文科省提出年度計画の取組は少しずつ進んでいると思われる。しかしながら、当該計画では「平成 30 年度までに整備し、周知・運用する」としているが、それが達成できたとするエビデンスはあるのか、明らかでない ・それぞれの年度計画は中期目標を達成するための方策であり、其々の計画の取組・成果によって中期目標がどの程度達成できたのかを示さなければならない。そこで、其々の計画については、中期目標の達成にどのように寄与したのか、この点から進捗状況を記載いただきたい（以下同様） ・全体として、現時点では各部局における検討や作業がどの程度まで進捗しているのかをデータあるいは具体的結果によって確認することができない（保留） ・平成 30 年度中に個々の科目の目標、科目配置、科目間連携などが、3つのポリシーに照らして適切か、検証し、その結果、改善した点があれば最終報告では提示できるようにしていただきたい。また、教育の国際通用性の検証結果についても、内部質保証プログラムの整備と共に更に何で持って国際通用性があると言えるか具体的な事項が提示できるようになると良い（進捗不十分）
	<p>1-①-1 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに求められる要件を整理したうえで、策定済みの各ポリシーの内容及び一体性を検討、必要な改定を実施する。その後も、継続的に見直す。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の各部局ではポリシーの見直しの検討が進んでおり、継続的な見直しがなされている ・ポリシーがどの程度周知されているかを確認の上、最終的には全員が周知しているよう、その方法を早急に検討・実施頂きたい ・大学院の 3 ポリシーの作成を急いでいただき、少なくとも来年度中に策定していただきたい ・大学院課程の 3 ポリシーの素案を今年度末までに策定するとされているが、進捗状況が必ずしも明らかではない。（保留） ・年度末の検証時までには各部局におけるポリシーの周知状況、内容と一体性の検証結果について明記できるようにしていただきたい（保留） ・三つのポリシーの認知度の検証に併せ、三つのポリシーを何で測るのか検証方法を定め、検証を進めていただく必要がある。今後、更に検討進めていただきたい。（例えば DP は、身につけた能力を何で測るのか。CP は、教育方法や教育評価をどうやって測るのか、AP は AP, CP, DP との一体性を何で確認するのかなど、いつ、どの学生アンケート調査等で調査するかなど。）（進

			捗不十分)
1-①-2	カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、教育課程が学位プログラムとしての体系性・国際通用性を有しているか検証し、必要な改善を（各部局の改組等にもあわせて）行い、周知・運用する。その後も継続的に見直す。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞	1-①-2-1 (1-①-2-1-1～7)	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画では個々の科目の目標などを全学的に確認しているが、これに関する取組がなされていない。また、その「妥当性」はどのように確認するのか、具体的な対応は定まっているのか？（進捗不十分） ・体系性の基盤となるカリキュラムマップやツリーは各学部で整備できているのか、確認願いたい。また、これに関連して「体系性」を示すための要件は何か、一覧にできればよい（それぞれ教育課程はそれを満たしていることを示すことができる）（進捗不十分） ・計画では、平成 30 年度末時点で体系的で国際通用性を有する教育課程の整備を完了するとなっているが、現時点では完了できるのか必ずしも明らかではない（保留） ・「個々の科目の目標、科目配置、科目間連携などの妥当性を全学的に確認する」となっているが、それをどのようにして行うのかを明確にしていきたい（保留） ・今年度の年度計画にある三つのポリシーに基づく、個々の科目毎の目標、科目配置、科目間の連携などの妥当性・適切性の検証を全学的に進めていただきたい
1-①-3	教育の国際通用性を検証するため、2-①の全学的な教学マネジメントの下、教育成果の検証を含めた内部質保証、海外大学ベンチマーキング（毎年）、国際アドバイザーによる外部評価（3 年毎）等を実施する。 ＜副学長（教育・学生）＞ ＜副学長（国際）＞	1-①-3-1 1-①-3-2 (1-①-3-1-1～6)	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証評価でも求められる「内部質保証システム」を整備するよう（遅くとも平成 31 年度中）、検討を進めていただきたい（進捗不十分） ・本年度のベンチマーキングは年度末に行われると窺っているが、その成果を全学に還元するようにはしていただきたい（実際に還元できたのかその成果を明示できるようにしていただきたい）（進捗不十分） ・「依頼を行った」「検討を開始した」あるいは「取り組みを行っている」という部局が多く、進捗状況が必ずしも明らかではない。年度末には、それらの結果を具体的に明記していただきたい（保留） ・ベンチマーキングを実施したことは記述されているが、それによる改善の具体的内容が書かれていない。年度末にはこの点を記述していただきたい（保留） ・内部質保証の制度、組織作りを進めていただいているかと思いますが、年度内に内部質保証システムの整備を進めていただきたい
1-①-4	教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組を行い、それにより質の高い学位プログラムを実現する。	1-①-4-1 (1-①-4-1-1～2)	<p>(検証結果) 保留</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p><教育学研究科> <工学研究科></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議は進められているものの、現時点では工学研究科の進捗状況が 0%となっていることから、<u>年度末には確実に 100%にできるよう検討を加速していただきたい</u>（保留） ・最終的に「質の高い学位プログラム」とは何を意味するのかを具体的かつ明確にできることを念頭に検討を進めていただきたい（保留） ・進捗率 0%となっているが、改組に向け順調に進捗しているという理解でよろしいか？記載内容だけでわからない
	<p>1-①-5 グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の育成状況を確認するため、養成人材像およびディプロマ・ポリシーで謳われた能力等（地元企業等の求める職業能力を含む）の涵養状況を検証する。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-5-1 (1-①-5-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・授業評価委員会において各部局の検証結果等を確認しているが、その確認結果をどのように提示すればよいかを検討いただきたい（涵養状況を全学的にも確認していることを示せる資料としたい） ・<u>年度末には検証結果をデータ等で具体的に示せるよう検証を進めていただきたい</u> ・能力の涵養状況と人材の輩出（育成）状況の検証方法について、引き続き全学または各学部で検討を進めていただき、明確に提示できるようにお願いしたい。具体的な到達目標を達成したかどうかを検証データ（教員による評価、卒業論文などの長期にわたる活動全体の評価、国家試験などの外部指標による評価など）として用意できると良い。何をどのように用意すれば良いか早期に検討しておいていただき、さらに検証を進めていただきたい
	<p>1-② 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるため、教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第 3 期中期目標期間中に 6 割以上にする。また、教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。 <全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画で予定されている「修得状況の全学的調査」及び「教育方法の検証と改善」がなされていない。本年度後半で実施できるのか明らかでない（進捗不十分） ・アクティブ・ラーニングの導入等は一定程度進んでいるが、導入率やその効果の検証結果が現時点では必ずしも確認できない（保留） ・高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるための教育方法の導入状況とその効果および改善の状況などの検証結果を各学部・研究科で提示できるようにしていただきたい
	<p>1-②-1 教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。 特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第 3 期中期目標期間中に 6 割以上にする。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況は概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの導入状況は一部の学部で示されているが、これは当該計画の KPI であり、その状況は随時把握いただきたい（進捗不十分） ・<u>年度計画で予定している、学習効果の検証、教育効果の高い授業方法の導入状況の調査がなされておらず、年度後半で実施していただきたい</u>（進捗不十分）

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			分) ・ <u>アクティブ・ラーニングの導入率や学習効果の検証結果について記述していない部局については、年度末には現時点での結果について具体的に記述していただきたい</u>
	1-②-2 教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。 <教育学部>	1-②-2-1 1-②-2-2	(検証結果) 進捗状況は概ね良好である (コメント) ・来年度の法人評価に向けて、目的とする能力の涵養状況をどのように検証するのか定め、それに基づいて検証を進めていただきたい ・「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力の育成状況の検証方法」がどのように検討されているのか必ずしも明らかではない（保留） ・プロジェクト型授業の導入実績はまだないか？今後、記載していただけると良い。また今後の擬態的な計画について提示できるようにしていただきたい。
	1-②-3 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などの修得状況を検証する。 <全学教育改革推進機構>	1-②-3-1 (1-②-3-1-1～5)	(検証結果) 進捗状況は概ね良好である (コメント) ・各部局では修得状況について様々な調査がなされているが、本年度後半ではそれに基づく教育方法の改善実績を提示できるようにしていただきたい ・ <u>年度末には能力等の修得状況の検証結果に関するデータ等を記述していただきたい</u> ・既に実施されている内容で、高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などについて、在学生・卒業生の修得状況を検証した取組みや改組後改善された点とその成果等を掲載できると良い
	1-③ 学生の主体的な学びの確立に向け、修学環境を維持・向上させるとともに、学習管理システムやシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。また、学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度（平成29年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。 <全学教育改革推進機構>		(検証結果) 進捗状況が不十分である (コメント) ・当該計画の主要KPIは「学生の授業外学修時間」であり、随時モニターしていただきたい ・米国型 GPA 制度の導入について計画が遅れており、実際に全学的に導入できるのかについて結論を出すべきである（進捗不十分） ・全学的に遅れている多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）の整備及び「国際通用性のある厳格な成績評価」の検証に向け、早急に検討を進めていただきたい（進捗不十分）
	1-③-1 図書館、ICT環境、自主的学習環境、学生の交流拠点などのハード面の修学環境について、利用状況や満足度を検証しつつ、維持・向上させる。 <高等教育推進センター（学生支援部門）>	1-③-1-1 (1-③-1-1-1～7)	(検証結果) 進捗状況は概ね良好である (コメント) ・当初予定した年度計画では「 <u>整備状況及び満足度の調査</u> 」を実施するとしているが、本年度後半で実施するのか？ ・一部の部局については抽象的な記述にとどまっていることから、年度末には <u>満足度調査等に基づいた改善をどのように行ったのかを具体的に記述できる</u>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>ようにしていただきたい（保留）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学環境の整備及び改善状況等について、毎年度、実績を資料としてまとめていただけるようにしていただきたい。また改善後の成果や学生の満足度を集約できると良い
1-③-2	<p>学修管理システム（LMS）やシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	1-③-2-1 (1-③-2-1-1～6)	<p>（検証結果） 進捗状況は概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初予定した年度計画では、授業時間外学修時間の調査を実施するとしているが、本年度後半で実施するのか？ ・自主的学習活動を促す履修指導を積極的に行うとしているが、その実施状況や成果をどのようにまとめるか検討いただきたい。また、シラバスでの100%記載は成果ではあるが、学生がそれをどのように活用したのかがポイントであり、それを調査することも必要と思われる ・年度末には、各部局において現時点で授業外学習時間がどの程度向上しているかについてのデータを記述していただきたい ・学生生活実態調査等の学生調査から思うような授業外学習時間数を導き出すことができていないようなので、できるだけ明確な調査結果となるように調査方法を工夫できると良い
1-③-3	<p>学士課程では米国型 Grade Point Average（GPA）制度（平成29年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	1-③-3-1 (1-③-3-1-1～6)	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画で予定された取組について、「～準備を進めている」としているが、本年度後半で具体的に実施できるのか明らかでない（進捗不十分） ・米国型 GPA 制度について、当初「平成29年度までに導入」としていたが、実際は達成できていない。そこで、これに代わる何らかの成果が必要であり、どのような成果を出すのか具体的な検討を進めていただきたい（進捗不十分） ・「国際通用性のある厳格な成績評価」とはどのようなものか、難しいとは思いますが、具体的にどのようなものであるか、提示していただきたい（進捗不十分） ・「国際地域学部における米国型 GPA 制度の導入成果と検証結果について、全学的に情報を共有するための報告会」を年度末までに確実に開催し、他部局への導入の是非について結論を出していただきたい（進捗不十分） ・多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）の整備及び「国際通用性のある厳格な成績評価」の検証を進めていただきたい（進捗不十分）
1-④	<p>教員養成に係る学部、教職大学院と附属学園の三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施、他大学と連携した教職大学院の共同大学院化や国内外のネットワークの拡大など、教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。</p> <p><教育学研究科></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>
1-④-1	<p>教員養成に係る三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修</p>	1-④-1-1	（検証結果）

	学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施 ＜教職大学院＞		進捗状況が概ね良好である (コメント)
	1-④-2 他大学と連携した教職大学院の共同大学院化 ＜教職大学院＞	1-④-2-1	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・3 大学合同での研究科委員会開催以外に他大学と連携した教職大学院の共同での具体的な取組み実績を記載していただきたい
	1-④-3 国内外のネットワークの拡大 ＜教職大学院＞	1-④-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・毎年度の国内外ネットワークへの参加状況が分かるようにしていただきたい
	1-④-4 教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。 ＜教職大学院＞	1-④-4-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・年度末には、つくばの教職員支援機構と福井県教育研究所を結ぶ教員研修の方法について検討がどのように進展したのか、具体的に記載していただきたい
	1-⑤ 子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築し、本学で蓄積中の先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善や、附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備、いじめ対策等生徒指導推進事業の推進、インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示を行う。 ＜教育学研究科＞		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっている、その成果は法人評価に大きく寄与するものであり、その十分な成果を期待したい。そのため、 <u>成果としてどのようなエビデンスが必要か、具体的に検討いただきたい</u> （進捗不十分） ・文科省提出年度計画に予定された取組がこれまでのところ十分にはなされていない。
	1-⑤-1 子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築 ＜教職大学院＞	1-⑤-1-1	(検証結果) 進捗状況が不十分である (コメント) ・当該計画では「子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築」をあげているが、これまでの成果からでは教育研究体制が構築されたのか明らかでない。どのような教育体制が構築されたら当該計画が達成されたとするのか、検討いただきたい（進捗不十分） ・年度末には、 <u>話題提供に参加したセンター教員人数、回数、話題提供したことによる具体的な成果を記載願いたい</u> （保留） ・医教連携の教育体制の構築がどのように進展しつつあるかを記載願いたい（保留）

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>1-⑤-2 先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善 <教職大学院></p>	<p>1-⑤-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画では「教員養成カリキュラム改訂」とおこなうとしているが、これまでの取組ではこれが実現できるのか明らかでない（進捗不十分） ・年度末にはカリキュラム改訂を完了できるようにしていただきたい ・カリキュラムが改善されたことがわかる実績とその成果を提示できるようにしていただきたい</p>
	<p>1-⑤-3 附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備 <教職大学院></p>	<p>1-⑤-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・特別支援教育コーディネーター検証を実施するとしているが、当該研修の開催数、研修者からの意見聴取結果等、成果を示していただきたい ・<u>年度末にはコーディネーター研修の実施に関する具体的な成果を記載していただきたい</u></p>
	<p>1-⑤-4 いじめ対策等生徒指導推進事業の推進 <子どものこころの発達研究センター></p>	<p>1-⑤-4-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画による事業の推進の結果どのような成果が得られるのか、計画が達成できたとするエビデンスは何か、検討いただきたい ・<u>年度末には、ライフパートナー事業についての具体的データや成果を記載することが望ましい</u></p>
	<p>1-⑤-5 インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示 <教職大学院></p>	<p>1-⑤-5-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画では「夏期における公開講座」を実施するとしているが、実施されていない（進捗不十分） ・当該計画では「養護教諭研修システムの先進的モデル提示」が達成点であるが、それに向けてどの程度進捗しているのか定かでない（進捗不十分） ・「養護教諭研修システムの先進的モデルの提示」に向けての進捗状況を記載していただきたい</p>
	<p>1-⑥ 国際地域学部を中心に、地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成するため、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。さらに、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <全学教育改革推進機構> <国際地域学部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「地域の企業や自治体の協力」がポイントとなるが、協力企業等は拡大しているのか、示していただきたい ・当該計画の目的は「地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成する」であり、その達成状況はどのくらいそのような人材が育成できたかがエビデンスとなる。この点のデータをどのように収集するのか、検討いただきたい</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<ul style="list-style-type: none"> ・各部局での個別的な取り組みはなされているものの、「他部局へ随時適用する」という点に関して進展が見られない（進捗不十分） ・各部局における学外組織と連携した取り組みをまとめていただきたい。また、その成果として、学生及び関係者からの満足度等の評価について、提示できるようにしていただきたい
	<p>1-⑥-1 国際地域学部を中心に、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。 <国際地域学部></p>	<p>1-⑥-1-1 (1-⑥-1-1-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初予定した年度計画は概ね実施されているが、全学的な英語教育体制の整備は進んでいるのか、明らかでない。さらに、これに関連し、英語教育の改善は図られたのか明らかでない ・「探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施」に対応した成果をどのように提示するか検討いただきたい ・年度末には「英語教育の改善」がどのように行われたのかを記載していただきたい（保留） ・「英語教育についての全学的な方針の策定」が今年度中に完了するかどうか不確かであり、この点を推進していただきたい。（保留）
	<p>1-⑥-2 その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <全学教育改革推進機構> <国際地域学部></p>	<p>1-⑥-2-1 (1-⑥-2-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際地域学部以外の部局でも関連する取り組みがなされているが、当該計画では「国際地域学部の取組を参考にして、探求型能動的学習における学外組織との連携を検討する」としているが、どのような点を参考にして、どのような連携を行ったのか、明らかでない（進捗不十分） ・当初年度計画では「交換留学制度の拡大」をうたっているが、その取り組み・成果が明らかでない（進捗不十分） ・「成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する」という点が進展していない（進捗不十分） ・各部局における学外組織と連携した取り組みをまとめていただきたい。また、その成果として、学生及び関係者からの満足度等の評価について、提示できるようにしていただきたい
	<p>1-⑦ 教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援するため、学びやすい教育システム等を整備し、第2期中期目標期間末と比較して、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加させる。 <COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加」をあげており、4コースだけではなく、新しい社会人向けプログラムの開講（科目数の増加）が必要ではないか ・「学びやすい教育システム等を整備し」をあげており、“学びやすさ”をどの

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>1-⑦-1 「地域の理科教育の核となるコアサイエンスティーチャー(CST)養成プログラム」、「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成」、「産業現場に即応する実践道場」、「履修証明プログラム」などにおいて、社会人が学びやすい教育システムの整備を行い、教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援する。また、関係者の意見聴取や満足度の検証を行うとともに、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを第 2 期中期目標期間末よりも増加させる。 <各部署></p>	<p>1-⑦-1-1 (1-⑦-1-1-1～5)</p>	<p>ように検証するのか検討いただきたい</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・各部署では、昨年度に引き続き、関係する社会人教育を実施しているが、受講者数などが昨年度と比較して増加したのか現時点では明らかでない。 ・当初年度計画では「受講者の満足度やニーズを検証する」としているが、一部では実施されているものの、其々のプログラムごとに実際に調査・検証がなされているか明らかでない（文科省提出年度計画で挙げられている）。少なくとも、全体としての満足度が示せるようにデータの収集等を願いたい ・年度末には CST 養成プログラム、履修証明プログラムの科目数や受講者数の増加状況を記載していただきたい ・年度末にはニーズの調査、検証結果を記載していただきたい</p>
<p><中期目標 2> グローバル高度専門職業人および地域活性化の中核となる人材の育成拠点として、教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進に係る取組みなど、質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。</p>	<p>2-① 質の高い教育を実現するため、平成 28 年度に再編する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用し、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。さらに、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備・運用するとともに、国際アドバイザー等による本学の教育全般の「国際的な水準」の検証を行い、教育の国際通用性や学位の質を保証する。 <全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・細分化された計画の進捗がなからず良好ではないため「進捗不十分」とした。当該計画では「教育の国際通用性や学位の質を保証」を目的としており、それが達成できたとするエビデンスをどのように集めるのか検討いただきたい（進捗不十分） ・全般的に取り組みが進んでいない。工学部以外の学部に関して記述がないが、それでよいのかを確認する必要がある（進捗不十分） ・教育の質保証システムの整備に向け、各会議において検討を進めていただき、カリキュラム・授業評価委員会を中心としたカリキュラム・マネジメントの実績や整備された教育の質保証システムの運用実績が提示できるように進めていただきたい</p>
	<p>2-①-1 全学的な教学マネジメントのもと、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備する。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-1-1 (2-①-1-1-1～3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・教育の内部質保証システムの整備が進んでいない。早急に、全学的な体制を整備いただきたい（進捗不十分） ・内質保証の見直しは開始されたが、年度末に開催予定の全学 FD・SD シンポジウム以外の具体的な計画が明らかではなく、現時点では年度末までに十分なデータや成果が得られるかが不明である（進捗不十分） ・内部質保証システムについて検討を進めていただき、今後、IR 機能も含めて充実を図っていただきたい</p>
	<p>2-①-2 1. で整備した教育の質保証システムを運用して教育改善に活かす（PDCA）。その一環として、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラ</p>	<p>2-①-2-1 (2-①-2-1-1～3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>ム・マネジメントを行う。その結果質の高い教育が実現されるよう、平成 28 年度に発足する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用する。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画で予定されている取組がなされていない（進捗不十分） ・「教員組織・教育組織分離体制を有効に活用する」としているが、その実績が必ずしも明らかでない。特に、工学系では「この体制を積極的に取り入れたからこそ可能となった」と成果をあげており、同様な成果が他部局でもあげられるように期待する（進捗不十分） ・「本学の教育全般の『国際的な水準』の検証」や「教員組織・教育組織分離体制を有効に活用した質の高い教育実施のための適正な教育資源の配分」がどのように行われているのか判然としない（進捗不十分） ・カリキュラム・マネジメントを行うための実施体制を整備し、随時、点検・改善を行えるようにしていただきたい
	<p>2-①-3 1. の一環として、国際アドバイザー等により、本学の教育全般について「国際的な水準」の検証を行う。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-3-1 (2-①-3-1-1～3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画では「国際的な水準」であることを確認するとしているが、取組の状況として「~において検証する準備を行っている」であり、今年度後半に確認できるのか明らかでない（進捗不十分） ・<u>高等教育推進センターの進捗率が 0%であり、カリキュラム・授業評価委員会</u>がどのように活動しているかも確認できない。年度末にはこの点を明確に<u>していただきたい</u>（進捗不十分） ・引き続き、検証を実施し、国際的な水準であることがわかる資料や各教育評価に基づく改善状況のわかる資料が提示できるように進めていただきたい
	<p>2-② 学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進することにより、学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する。このため、学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。 <キャリアセンター></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画で予定された取組やその成果が今回の進捗状況から読みとることができないが、本年後後半でそれが達成できるのか危惧される（進捗不十分） ・「学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証」としているが、継続的实施を行っていただきたい（進捗不十分）
	<p>2-②-1 インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進する。 <キャリアセンター></p>	<p>2-②-1-1 (2-②-1-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加学生数の増加等、各部局ではそれぞれ取組が進められているが、当初年度計画に予定された取組に関する具体的な取組や成果が記載されておらず、進捗状況が明らかでない（体制の合理化、整備は進んでいるのか？）（進捗不十分） ・地域志向人材育成と県内就職支援を志向する県内企業とのインターンシップの開拓について、取組がなされていない（進捗不十分）

	<p>2-②-2 学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等により、本学卒業（修了）生が社会的・職業的自立に必要な資質・能力等を備えているか、組織的に検証を行う。 <キャリアセンター></p>	<p>2-②-2-1</p>	<p>・「<u>地域志向人材育成と県内就職支援を志向する県内企業とのインターンシップ開拓</u>」の進捗率が0%であり、年度末にはこの点の取り組みや成果について記述していただきたい</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する」を目標値としており、その根拠となる満足度は随時フォローすべきものであり、その結果は向上しているのか明らかにしなければならない。少なくとも来年度には向上していなければならない（進捗不十分） ・「本学卒業（修了）生が社会的・職業的自立に必要な資質・能力等を備えている」を検証することとしているが、具体的な資質・能力等とはいかなるものか明らかになっているのか（進捗不十分） ・キャリアセンターで実施している学生の就職先へのアンケートには教員が含まれていないため、教育学部でその点に対処するためのアンケートが継続的に実施されているかどうかを確認する必要がある ・3年毎に実施している企業等へのアンケート以外に就職先での評価となるデータは取れないのか。意見聴取等のデータも取りまとめていただき、提示できると良い。1-①-5, 1-②-3 の能力涵養状況と人材の輩出（育成）状況のデータにもなる（進捗不十分）</p>
	<p>2-③ 大学のグローバル化を促進させる教育実施体制整備の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等によって、国際的に通用する教務システムを整備する。特に国際地域学部はこれらの取り組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <全学教育改革推進機構> <国際地域学部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく寄与するものであり、十分な成果が必要とされる。また、その成果を示すことができる具体的なエビデンスを検討いただきたい（進捗不十分） ・文科省提出年度計画では「国際地域学部の成果を全学的に検証する」としているが、その取り組みは必ずしもなされていない（進捗不十分） ・シラバスやナンバリングに関する取り組みは一定程度進展しているが、国際地域学部における検証とその成果の全学的共有を加速していただきたい（保留） ・今年度中に国際化に資する教務システムの整備完了となっているが運用面で進捗が遅れているものと思われる。全学的に検証等を進めていただき整備された教務システムが機能していて、成果があがるようにしていただきたい（進捗不十分）</p>
	<p>2-③-1 カリキュラム・マネジメント（2-①-2）の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等を行い、（1-③-3 などの取組とあわせ）国際的に通用する教務システムを整備する。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-③-1-1 (2-③-1-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画では「国際的に通用する教務システムの整備を終える」として</p>

	<p><国際地域学部></p>		<p>いるが、現状では整備が完了できるのか明らかでない。特にどのような要件が備わったら整備が完了したとするのか（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際地域学部で進められている「評価指標の策定」に期待したい（進捗不十分） ・「国際地域学部における米国型 GPA 制度の導入成果と検証結果について、全学的に情報を共有するための報告会開催にむけ準備を進める」とされているが、現時点では国際地域学部における検証の進展が必ずしも明らかではない。<u>年度末までには、この点の具体的な進展状況を記述していただきたい</u>（保留） ・学年進行によりやむを得ないと思うが、整備された教務システムが運用されて、機能しているのかわからない。CAP 制やナンバリングなど、導入後の実際の運用やその効果検証等がなされていないようなので、今後、進めていただきたい（進捗不十分）
	<p>2-③-2 国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会> <国際地域学部></p>	<p>2-③-2-1 (2-③-2-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況は不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画では「~教務システムの全学的な導入を終える」としている。しかしながら、国際地域学部では様々な取組みがなされているが、現状ではその導入が完了できるのか明らかでない（進捗不十分） ・国際地域学部における成果の検証に基づいて今年度中に「国際的に通用する教務システムの全学的な導入を終える」という目標を達成できる可能性は、現時点では不明である（保留） ・CAP 制の見直しやナンバリングの導入は終わったものの、実際の教務システムとしての運用はあまりされていないように思われる。CAP 制やナンバリングなど、導入後の実際の運用やその効果検証等がなされていないようなので、今後、進めていただきたい（進捗不十分）
<p><中期目標 3> 学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホルダーの満足度が高い修学支援、生活支援、留学支援等とともに、高い実績を持つ就職支援を推進する。</p>	<p>3-① 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持する。このため、学生等への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。特に、就職先から高く評価されている就職支援体制を基盤として、積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね 96%前後の高い就職率を維持する。</p> <p><高等教育推進センター（学生支援部門）></p> <p>3-①-1 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用する</p> <p><高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>3-①-1-1 (3-①-1-1-1~8)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「ステークホルダーの高い満足度を維持」および「就職先から高く評価されている」が成果を示す K P I であり、これらを常にフォローするようにしていただきたい ・学生生活実態調査に留まらず、他のアンケート調査やヒアリング等からも関係者の満足度を常に検証し、資料として提示できるようにしていただきたい <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの関係部局では、基本方針に基づくだろう様々な取組みがなされている。最終的に、基本方針に対応した取り組み、その成果が一覧となるよう整理願いたい ・年度末には、「第 3 期修学環境支援基本方針」に基づく関係部局の取組みの実

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<p><u>施確認の結果を記述していただきたい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学的な基本方針のもと、学生支援体制がどう整備・運用され、成果が得られているのかわからないので、今後、全学な視点から検証等を進めていただき、取りまとめしていただきたい
	<p>3-①-2 学生支援体制について学生等への意見聴取を継続的に行い、組織的に検証を行う。 <高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>3-①-2-1 (3-①-2-1-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・平成28年度に実施した満足度調査に基づき、改善等が図られている。しかしながら、「学生等への意見聴取を継続的に行い」に対応する取組が生活実態調査だけで良いのか。特に、当該計画のKPIは「ステークホルダーの高い満足度を維持する」であり、随時、満足度をフォローする必要があるのではないか ・<u>年度末には、提言を受けた各部局における支援体制の改善結果について記述していただきたい</u></p>
	<p>3-①-3 積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね96%前後の高い就職率を維持するとともに、就職先での高い評価を得る。 <キャリアセンター></p>	<p>3-①-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「就職先での高い評価を得る」をあげており、これに関する取組や成果はどのようになっているのか、明らかでない</p>
	<p>3-② 在学生の留学や外国人留学生の受入れを積極的に進めるために、留学の情報提供、修学・生活・就職にわたる総合的できめ細かい支援を行う。そのために、留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革などを行うとともに、留学生用住居を拡大する。 <国際センター運営委員会></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・文科省提出年度計画では「学術協定校数を増加させ」としているが、実際に増加しているのか確認したい ・留学生及び派遣学生数の向上につながる交換留学制度の更なる拡大を期待したい。 ・当該計画では「留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革」を具体的な方策としてあげているが、少なくともそれぞれについては具体的な成果が求められるので、検討願いたい ・教育学部・教育学研究科における進捗状況が記載されていないが、3-②については同学部・研究科は実施対象外であると考えてよいのか ・受入、派遣とも数値が上がっているのかわからないので、資料を提示できるようにしていただきたい。また改善されたことによる成果についても取りまとめていただき、全学的に検証を進めていただきたい</p>
	<p>3-②-1 外国人留学生の受入を積極的に進めるため以下の取組を実施する。 (1)短期留学生、正規留学生とリクルートする対象を明確にした上で、それぞれのグループに対</p>	<p>3-②-1-1 (3-②-1-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>しにどのような学術プログラムが提供されているか、その特徴と強み、なぜ福井大学で学ぶべきのかなど、情報提供を行う。</p> <p>(2)修学、生活、就職に及ぶ総合的且つきめ細かい支援体制を整備、運用する。同時に、国際通用性のある入試制度の導入や、留学生用住居の拡充、就職など、それぞれの支援体制の整備、充実を図る。</p> <p><国際センター運営委員会></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画で予定していた取り組みがそれぞれの部局で順調に実施されている。なお、当該計画の主要なK P I は留学生数の向上（1 5 %増）と関係者からの高い評価であり、それが達成できるよう更なる取組を期待したい ・学生支援体制以外の部分で全体的な留学生の受入状況など、「期末の達成状況」欄に示された項目が現時点でどの程度達成される見込みがあるのかわからないので、具体的にどれぐらい進捗しているのかわかるようにしていただきたい
		<p>3-②-2 在学生の海外留学を積極的に進めるために、学術交流協定校の学術プログラム、留学費用、課外活動、施設、その他のサービス等の情報提供や、留学前準備、留学中の履修・生活・危機管理など支援体制を充実させる。</p> <p><国際センター運営委員会></p>	<p>3-②-2-1 (3-②-2-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画で予定していた取り組みがそれぞれの部局で順調に実施されている。なお、当該計画の主要なK P I は派遣学生数の向上（1 5 %増）と関係者からの高い評価であり、それが達成できるよう更なる取組を期待したい ・語学センターの取り組みについては「該当なし」となっているが、どのような意味か。語学センターが実施対象外の部局であるということであれば、紛らわしいので記入欄を削除すべきではないか ・取組みの結果、派遣学生数は増える見込みなのかどうかかわからないので、年度末までにその成果がわかるようにしていただきたい
<p><中期目標 4> 多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し、知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な学生の受入れを進める。</p>	<p>4-①</p>	<p>一体的な 3 ポリシーのもと、達成度テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。さらに、新たな高大連携のあり方およびそこでの学習成果に基づく多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行うとともに、それを通して高大接続入試、特に個別選抜の改善に資する。国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部での導入を検討する。</p> <p><入学試験委員会></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「～を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する」としており、具体的な導入実績とその成果が明示できるように検討いただきたい（進捗不十分） ・文科省提出年度計画であげた「～について予告として取りまとめ、公表する」、「合同の評価開発研究会等の年 2 回以上開催」さらに「募集人員の定数化を図る」について、具体的な成果が見られないが本年度後半でこれらは達成されるのか明らかでない（進捗不十分） ・当該目標の K P I は「多様な学生が受け入れられたのか」であり、それに関するエビデンスを収集するよう、検討願いたい（進捗不十分） ・平成 33 年度入試以外についても、各年度で検討・改善された点について資料として提示できるようにしていただきたい。また、その改善後の成果についても検証を進めていただき、資料を提示していただきたい
		<p>4-①-1 達成度テスト（仮称）や大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。</p> <p><入学試験委員会></p>	<p>4-①-1-1 (4-①-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画では「実施・評価体制を整備する」としている。各部局で様々な取組みがなされているが、体制整備に繋がる取組み・成果が明らかでない（進捗不十分）

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<ul style="list-style-type: none"> ・学力評価テスト（仮称）の全学的な取り扱いについて、志願者に周知したとしているが、方針等が策定されたのか、志願者への通知がどの程度のものとなっているのか明らかでない。（進捗不十分） ・年度末には、<u>検討・実施・評価の結果について、より具体的に記述していただきたい</u> ・平成 33 年度からの入試の検討以外にも、各年度で導入された多面的・総合的に評価判定できる選抜方法の策定・導入状況等の検討・改善された点を記載及び資料として提示できるようにしていただきたい。 ・国際バカロレア資格等の活用の検討状況はどうか
4-①-2	<p>新たな高大連携のあり方を検討・実施し、高大連携教育によって生徒が得た学習成果や多様な能力をルーブリック等により多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行う。</p> <p><入学試験委員会></p>	4-①-2-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画に関連する概算に係る取組みがなされているが、当該計画の成果として「多面的・総合的に評価する手法」を具体的に提示できるものにしていただきたい ・年度末には、<u>高大連携教育参加者を対象とした開発中の評価手法の検証結果を記述していただきたい</u> ・各年度で取り組んだ高大連携によるプロジェクトによる評価の信頼性・妥当性についての検証結果資料、プロジェクトの実績が高大連携入試や高校または大学での授業等の改善につながった実績が資料として提示できるようにしていただきたい
4-①-3	<p>2. で開発した評価手法を取り入れた高大接続入試（特に、個別選抜）を実施する。特に、国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部でもその特性に合わせて導入を検討する。</p> <p><入学試験委員会></p>	4-①-3-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学部入試への導入は当該計画の成果と言える ・本事業で開発された評価手法等を取り入れた高大接続入試の他学部での実績を拡大していただき、その成果等を資料として提示できるようにしていただきたい
4-②	<p>志願者・入学者の状況やアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行うとともに、必要に応じて入学定員の見直しを行う。さらに課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させるとともに、初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。</p> <p><入学試験委員会></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画では「国際地域学部の～定数化」をあげているが、これは達成できたのか ・現時点では、進捗状況について判断できない記述が散見される。<u>年度末には具体的な取り組み結果を記述できるようにしていただきたい</u>（保留） ・アドミッション・ポリシーの点検及び検証結果等は全学として統一的な指標で検証結果をまとめられるよう必要項目を設定していただき、各局部において検証を進め、年度毎に資料が提示できるようにしていただきたい
4-②-1	<p>志願者や入学者の状況、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行う。</p>	4-②-1-1 (4-②-1-1-1～5)	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>

	<p><入学試験委員会></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部局では様々な関係する検証がなされているが、それをいかに入試方法等の改善に繋げるのか、また改善した実績、その成果が提示できるようにしていただきたい ・当該計画では、少なくとも志願者や入学者の状況、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズについては、検証結果が一覧できるような整理をしていただきたい ・引き続き検討・検証していくとしている部局があるが、年度末には成果を具体的に示せるよう進めていただきたい ・全学的に点検した結果がわかるように資料としてまとめられるようにしていただきたい
	<p>4-②-2 必要に応じて入学定員の見直しを行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-2-1 (4-②-2-1-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部局では入学定員の見直し、修正がなされている。 ・全学的に見直した結果がわかるように資料としてまとめられるようにしていただきたい。また見直し後の結果についても検証していただき資料として提示していただきたい
	<p>4-②-3 課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させる。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携の具体的取組の実施状況（定量的な指標）を随時フォローしていただきたい。少なくとも、これらが向上したことが当該計画の成果となる。 ・<u>年度末には取り組み状況とその成果を具体的に記述していただきたい</u>（保留） ・各学部の教員が実施している高大連携（高校等授業）への参画状況が資料として提示できると良い。総合データベース等の教員の入力データ（地域・社会貢献活動）等から SSH 校や SGH 校などへの支援状況が実績資料として提示できないか。または、他に全学的に調査する方法があると良い
	<p>4-②-4 初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-4-1 (4-②-4-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画にあげられた取組がそれぞれの部局で進められている。 ・当該計画では「県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保」が目的であり、この達成をどのようなエビデンスで示すのか、検討いただきたい ・「進捗状況」欄の記述が「取り組み」欄の記述の繰り返しになっている部局が見受けられ、進捗状況を判断できない（保留） ・本学が実施した高大接続事業等が大学教育・生活への移行に役立ったことが検証結果として、年度毎に蓄積され、資料として提示できると良い ・年度計画に挙げられている入学学生の追跡調査等の各検証結果が資料として

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

				提示できるようにしていただきたい
--	--	--	--	------------------

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【研究】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 国際・国内研究拠点の形成を目指し、先端的画像医学研究、遠赤外領域開発・応用研究、原子力安全・危機管理研究、教師教育研究などを学内横断的かつ重点的に推進する。</p>	<p>1-① 本邦初の分子イメージング部門を擁し、世界最先端画像医学研究拠点の一つである高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。これらにより、生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画に係る中期目標では「<u>国際・国内研究拠点の形成を目指し</u>」となっており、当該計画の成果によって拠点形成がなされたことを示す具体的なエビデンスを検討願いたい。(以下同様) ・当該計画は「<u>戦略性が高く意欲的な計画</u>」となっており、法人評価に大きく影響するものであり、<u>十分な成果を期待したい</u> ・定量的な K P I の達成度は年度中間のため明らかでないが、予定された取組が実施されている ・英語論文数が厳しい状況である(高エネセンターの第 2 期：1 1 8 件、第 3 期：3 6 件、印刷待ちを入れても 4 1 件) (進捗不十分)</p>
	<p>1-①-1 (目標を実現するための推進方策) 高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。 <高エネルギー医学研究センター></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3 1-①-1-4 1-①-1-5 1-①-1-6</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画で予定された研究が進められており、一部論文発表などの成果があがっている ・当該計画にあげた医工教連携研究活動の進捗状況が明らかでない;学内横断的としており、それに係る成果を提示願いたい ・細分化した中期計画の内容である「<u>国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施</u>」と取組内容の概要で書かれた内容が対応しないように見える。そのため進捗状況として、細分化した中期計画と進捗状況が合わないのではと思われるところが見受けられる ・中間であるにも関わらず、進捗状況が詳細に記載されおり、高エネルギー医学研究センター、子どものこころの発達研究センターともに十分な取組がなされている ・研究は着実に取り組まれ進捗されていると思います。成果もあがっているので進捗は概ね良好と判断しましたが、具体の取組が～を目差すという表現であり最終評価は難しい ・研究が活発に進められている状況が分かるが、計画に対する進捗状況が良好なのかどうか、記載からは判断ができない。<u>評価指標に対する進捗状況が分かるように記載いただきたい。</u>(保留)</p>
	<p>1-①-2 (中期計画に記載の評価指標) 生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター></p>	<p>1-①-2-1 1-①-2-2 1-①-2-3 1-①-2-4 1-①-2-5</p>	<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・論文掲載、共同研究等の成果があがっているが、年度中間でもあり評価指標としてどの程度達成できているのか明らかでない(保留) ・評価指標として、「……を第二期より 20%以上増加させる」としているが、現</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>在どの程度達成しているのか、すなわち基準の元となる第二期の数値が不明なため評価が難しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際シンポジウム、国内・国際共同研究の取組や、発表論文数、被引用回数についても十分な成果が上がっている。学術誌の掲載と学会発表の数値については、被引用回数も含め、年度末に改めて進捗状況の記載をお願いしたい ・進捗状況の記載について成果が数値により明示されていて進捗していることが分かるが、<u>年度の最終目標に対応した記載が必要と思われる</u> ・英語論文数が厳しい状況である（高エネセンターの第 2 期：1 1 8 件、第 3 期：3 6 件、印刷待ちを入れても 4 1 件）（進捗不十分）
1-②	我が国唯一で世界的にも優れた高出力遠赤外光源ジャイロトロンの研究開発実績を踏まえ、公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップの主催等を通して、新しい学術研究としての遠赤外分光・計測研究、遠赤外領域の先端科学研究および高出力遠赤外技術開発研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 ＜遠赤外領域開発研究センター＞			<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・定量的な K P I の達成度は年度中間のため明らかでないが、予定された計画が実施されている</p>
1-②-1	（目標を実現するための推進方策） 公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップを開催する。 ＜遠赤外領域開発研究センター＞	1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5 1-②-1-6		<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・1-②-1-1 について、国内共同研究の実績があがっているが、国際共同研究の実績はどうか明らかでない ・1-②-1-3 について、今回雇用された研究員が“若手”に該当するのか確認願いたい ・国際ワークショップの開催、人材育成のためのプログラム、若手教員の雇用について、成果が順調に上がっている ・評価指標に見合った進捗が伺え、順調であると判断する</p>
1-②-2	（中期計画に記載の評価指標） 学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。 ＜遠赤外領域開発研究センター＞	1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・共同研究等の成果があがっているが、年度中間でもあり評価指標としてどの程度達成できているのか明らかでない（保留） ・掲載数については、平成 30 年度のみならず、これまでの推移を含めてどうなのかの記載がないと、細分化した中期計画の検証が難しい。 ・学術誌の掲載と学会発表の数値については、被引用回数も含め、年度末に改めて進捗状況の記載をお願いしたい ・国内・国際共同研究の実施件数については、順調に成果が上がっている ・評価指標に対応した記載となっているが、年度の記載目標値が分からない部分もあり判断材料として記載が必要</p>
1-③	「安全と共生」を基本として平成 21 年 4 月に設置された附属国際原子力工学研究所を中心に、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップの開催等を通して、軽水炉およ			<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>び高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究を一層推進し、国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。</p> <p><附属国際原子力工学研究所></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく影響するものであり、十分な成果を期待したい ・年度途中ではあるが、多くの K P I が目標値に達している ・受賞実績が第 2 期より落ち込んでいる（第 2 期：6 件、第 3 期：1 件）（進捗不十分）
	<p>1-③-1 （目標を実現するための推進方策）</p> <p>公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップを開催する。</p> <p><附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2 1-③-1-3 1-③-1-4</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の採択、国際セミナーの実施等、当初年度計画に沿った取組が進められている。しかしながら、当該計画の主な K P I である「公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣」の実績が明らかでない ・年度計画に沿った研究が着実に進められており、成果も具体的に記載されている ・各取組に係る進捗状況は高い進捗率となっており、各研究の進捗は順調と判断する ・研究が活発に進められている状況が分かるが、計画に対する進捗状況が良好なのかどうか、記載だけからでは判断ができない。評価指標や「<u>具体の取組</u>」の計画に対する進捗状況が分かるように記載いただきたい。(保留)
	<p>1-③-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。</p> <p><附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-③-2-1 1-③-2-2 1-③-2-3 1-③-2-4 1-③-2-5</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中ではあるが、多くの K P I が目標値に達している。 ・1-③-2-4 について、1-③-1-2 に記載された優秀ポスター賞はこれに該当しないのか ・国内・国際共同研究実施件数の増加状況については大変優れた進捗状況である。 ・学術誌への成果発表について、大変緻密な報告がなされている。被引用回数も含め、年度末に改めて進捗状況の記載をお願いしたい ・各評価指標に対する目標値、実績値が明確であり容易に判断でき記載方法もよい。進捗について概ね良好である ・受賞実績が第 2 期より落ち込んでいる（第 2 期：6 件、第 3 期：1 件）（進捗不十分）
	<p>1-④ 教師の学校内における職能成長を支える制度構築が求められる今日、全国に先駆け学校拠点方式の教職大学院を設置した実績を踏まえ、知識基盤社会において求められる主体的・協働的な学びを中心とする学校を実現する力を持った教師を養成することを目指し、全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進して、福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。</p> <p><教育学研究科></p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく影響するものであり、十分な成果を期待したい ・教育や社会貢献の点から、これまでの十分な実績からすでに拠点掲載がなされていると思われるが、当該中期目標では“教師教育研究”の拠点形成を目的としており、研究開発を視点として成果を明示できるよう配慮願いたい 	

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の取組について、各進捗状況に差がみられる
	<p>1-④-1 （目標を実現するための推進方策）</p> <p>全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進する。</p> <p><教育学研究科></p>	<p>1-④-1-1</p> <p>1-④-1-2</p> <p>1-④-1-3</p> <p>1-④-1-4</p> <p>1-④-1-5</p> <p>1-④-1-6</p> <p>1-④-1-7</p> <p>1-④-1-8</p> <p>1-④-1-9</p>	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度中間のため十分な成果は出ていないが、当初年度計画で予定された取組が進められている。 ・ 1-④-1-6 について、拠点数等は目標値に達している ・ 具体の取組について、各進捗状況に差がみられる ・ 前年度末に指摘した内容については、具体的な進捗がみられないため、引き続き検討をお願いしたい（1-④-1-4 については公開研究会が 11～12 月に実施） ・ 概ね良好な進捗と思われるが、進捗が進んでいないものもあり、今後に期待する ・ <u>1-④-1-4 については、年度末評価の際に、公開準備会及びラウンドテーブルへの大学教員の参加率を明記いただきたい</u> ・ <u>1-④-1-5 については、年度末評価の際に、協働実践型 FD との連動状況について明記いただきたい</u>
	<p>1-④-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。</p> <p><教育学研究科></p>	<p>1-④-2-1</p>	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エジプト・日本教育パートナーシップ事業に採択が決まった ・ 連合教職大学院が設置され、順調に推移していると考えられる ・ 評価指標①の進捗は。その他の②～⑤は概ね良好と思われる。（保留）
<p><中期目標 2></p> <p>科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。</p>	<p>2-① 医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。</p> <p><医学部・医学系研究科></p>		<p>（検証結果）</p> <p>保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく影響するものであり、十分な成果を期待したい</u>（保留） ・ 年度中間ではあるが、K P I に係るデータが示されていない ・ 半年毎の論文・学会発表等の調査は取組は行っていないが、それぞれの取組について優れた論文の発表を行っており、概ね順調に成果が上がっていると判断した ・ 学部（部門）の研究成果について、学術誌への掲載と学会発表の調査は「年度毎」で行うことが適切ではないか ・ 2-①-1, 2-①-2 について、平成 29 年度より、中間評価では「(定量的指標については) 確認作業中」となっていることから、中間時点でも何らかの形で集計が可能か確認したところ、回答が得られなかったため、今後検討・整理が必要と思われる。（保留）（検討中）
	<p>2-①-1 （目標を実現するための推進方策）</p>	<p>2-①-1-1</p>	<p>（検証結果）</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進する。 <医学部・医学系研究科></p>	<p>2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>保留 (コメント) ・当初年度計画であげた研究が実施されているが、成果が明らかでない ・これら研究を推進するにあたり、それを支援する方策等に関する取組がなされていないのか確認願いたい（成果としてあげられないか）（保留） ・全て「研究を推進中」「確認作業中」となっており、検証ができない ・進捗率については年度毎ではなく、第三期最終の達成目標を念頭に「きびしい」自己評価としている ・それぞれの取組について優れた論文の発表を行っており、順調に成果が上がっていると判断した ・取組は各々研究を推進するとなっているが、成果が確認作業中であり、研究実績が見えてこないため保留とする（保留）</p>
	<p>2-①-2</p>	<p>（中期計画に記載の評価指標） 学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第2期よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第2期より20%以上増加させる。 <医学部・医学系研究科></p>	<p>2-①-2-1 2-①-2-2 2-①-2-3 2-①-2-4</p>	<p>（検証結果） 保留 (コメント) ・全て「モニタリングを実施予定」となっており、検証ができない ・年度中間でもあり、具体的な数値が示されておらず、計画がどの程度達成できているのか明らかでない ・学部（部門）のすべての教員のプロジェクト進捗状況について、半年毎の論文・学会発表等の調査は取って行っていない。年度末に一年度分として集計し、進捗状況を検証する予定である（保留） ・各進捗状況がモニタリングの実施予定となっているため保留とする（保留）</p>
	<p>2-②</p>	<p>前身の福井高等工業学校設置から90年以上の間、工学の幅広い分野で研究を遂行し、地域および我が国の産業力強化に貢献してきた歴史を踏まえ、工学分野の研究を強化し、工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第2期中期目標期間よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化した繊維・機能性材料分野では第2期中期目標期間より20%以上増加させる。この目標を達成するために、メリハリのある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等により、工学分野で優れた学術基盤研究・発展研究の推進、重点分野の育成を行う。 <工学部・工学研究科></p>		<p>（検証結果） 保留 (コメント) ・年度中間ではあるが、KPIに係るデータが示されていない（保留） ・学部（部門）の研究成果について、学術誌への掲載と学会発表の調査は「年度毎」で行うことが適切ではないか ・2-②-2について、モニタリングの実施にいたっておらず、判断できない（保留）</p>
		<p>2-②-1 （目標を実現するための推進方策） メリハリある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等を行う。 <工学部・工学研究科></p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である (コメント) ・当初年度計画で予定された取組が進められている ・人事運用とプロジェクト研究の推進はよいが半年毎で何%達成ではなく、数年単位の視点で評価すべき内容ではないか ・年度計画に沿って順調に取組が進捗しており、進捗率も高く良好な状況と思われる</p>
	<p>2-②-2</p>	<p>（中期計画に記載の評価指標） 工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第2期よりも増加させる。</p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p>	<p>（検証結果） 保留</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>特に、ミッションの再定義で重点化する繊維・機能性材料分野では第 2 期より 20%以上増加させる。 <工学部・工学研究科></p>		<p>(コメント) ・年度中間でもあり、具体的な数値が示されておらず、計画がどの程度達成できているのか明らかでない（保留） ・モニタリング結果は ・学部（部門）の研究成果について、学術誌への掲載と学会発表の調査は「年度毎」で行うことが適切ではないか（保留） ・被引用回数も含め、年度末に改めて進捗状況の記載をお願いしたい ・モニタリングの前段階であり、今後の結果による判断となるため保留とする（保留） ・モニタリングの実施にいたっておらず、判断できない（保留）</p>
<p><中期目標 3> 社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした研究成果を社会に還元する。</p>	<p>3-① 福井方式として認知された産業活性化活動を進めてきた産学官連携本部を中心に、民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築し、地域・社会の発展に資する産業や豊かなくらしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出を推進し、特許活用率および県内企業との共同研究割合を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-1 （目標を実現するための推進方策） 民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築する。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-1-1 3-①-1-2 3-①-1-3 3-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 保留 (コメント) ・年度中間ではあるが、K P I に係るデータが示されていない（保留） ・<u>当該計画では「地域・社会の発展に資する産業や豊かなくらしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出を推進」を目的としており、これが達成できたことを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい（保留）</u> ・文科省提出年度計画であげている「地域ビジョンに基づく戦略的研究」、「実践教育プログラム構築・提供」に係る取組みがなされているのか明らかでない（保留） ・3-①-1 について、様々な活動が活発に行われていることは分かるが、計画に対する進捗状況が良好なのかどうか、記載だけからでは判断ができない。<u>評価指標や「具体の取組」の計画に対する進捗状況が分かるように記載いただきたい（保留）</u></p>
		<p>3-①-1 （目標を実現するための推進方策） 民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築する。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-1-1 3-①-1-2 3-①-1-3 3-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・3-①-1-2 について、知財創出・活用状況として出願件数や棚卸実績が示されているが、これらを含め知財創出・活用が向上しているのか明らかでない ・多くの取組について、順調に推移している ・産学官金連携コーディネーター 7 名の委嘱の継続や、文部科学省補助金地域イノベーションエコシステム形成プログラムに係るベンチャーの設立等の成果があがっている ・様々な活動が活発に行われていることは分かるが、計画に対する進捗状況が良好なのかどうか、記載だけからでは判断ができない。<u>評価指標や「具体の取組」の計画に対する進捗状況が分かるように記載いただきたい。（保留）</u></p>
		<p>3-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 特許活用率および県内企業との共同研究割合を第 2 期よりも増加させる。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

				<ul style="list-style-type: none"> ・技術相談件数はすでに昨年度を上回るなど取組の成果があがっているが、当該計画の K P I である特許活用率および県内企業との共同研究割合の状況が明らかでない（保留） ・第 2 期に対する割合がわからない ・共同研究の取組、技術相談件数が順調に推移している ・地域との共同研究割合について、また技術相談件数について十分に進捗している。また T-URA による計測相談の伸びが顕著である
<p><中期目標 4> 研究活動の高度化および効率化のために、研究の体制および環境を整備する。</p>	<p>4-① 国際的な共同研究および研究者交流を推進するとともに、新たな学問領域の創生や社会的な課題解決のために、国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築し、国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。 <研究推進委員会></p>	<p>4-①-1 （目標を実現するための推進方策） 国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築する。 <研究推進委員会></p>	<p>4-①-1-1 4-①-1-2 4-①-1-3 4-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度中間ではあるが、K P I に係るデータが示されていない（保留） ・国、大学、学部などの枠を超えた連携の実績（件数など）はどうなっているのか、論文数以外の成果もフォローする必要があるのではないかと（保留） ・4-①-2 ではモニタリングがまだ実施できておらず、判断できない（保留）
		<p>4-①-1 （目標を実現するための推進方策） 国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築する。 <研究推進委員会></p>	<p>4-①-1-1 4-①-1-2 4-①-1-3 4-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携支援を受けた研究者の満足度も成果のエビデンスとなるのではないかと ・多くの取組について、順調に推移している ・私費による外国人大学院生の数や、留学生全体の学位の取得数、国際共同研究の MTA 締結数などはフォローされているのか ・具体の取組みに沿って概ね良好に進捗している。一部評価指標に対する記載のない部分がある ・別途確認も行ったが、<u>評価指標や「具体の取組」の計画に対する進捗状況（特に検証と見直しの状況）が分からない。年度末にはその点が分かるように記載いただきたい</u>（保留）
		<p>4-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第 2 期よりも増加させる。 <研究推進委員会></p>	<p>4-①-2-1 4-①-2-2 4-①-2-3</p>	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度中間でもあり、具体的な数値が示されておらず、計画がどの程度達成できているのか明らかでない（保留） ・モニタリングによる把握ができていない ・学部（部門）の研究成果について、学術誌への掲載と学会発表の調査は「年度毎」で行うことが適切ではないかと ・年度末に改めて検証をお願いしたい（保留） ・総合 DB によるモニタリングの進捗がその過程とともに不明であり保留とする（保留） ・モニタリングがまだ実施できておらず、判断できない（保留）
		<p>4-② リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等により、研究力を強化し、研究活動を効果的・効率的に推進する。</p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p><産学官連携本部></p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文科省提出年度計画では「リサーチ・アドミニストレーション指針を策定」となっているが、その方針は実際に策定されたのか明らかでない 様々な取組がなされているが、<u>年度中間ではその成果（外部資金獲得状況）が十分とは言えず、本年度後半の向上を期待したい</u>
	<p>4-②-1 （目標を実現するための推進方策）</p> <p>リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等を行う。</p> <p><産学官連携本部></p>	<p>4-②-1-1 4-②-1-2 4-②-1-3 4-②-1-4</p> <p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当初年度計画で予定された取組がなされている 4-②-1-1 について、当初年度計画では「活動従事者数の妥当性評価」をすることとなっているが、評価がなされたのか明らかでない 近年非常に活発になってきた印象を持っているが、各指標からについての記載内容からは具体的な成果がまだ見えにくいように思う 具体の取組みに沿って概ね良好に進捗している。特に RA 活動従事者数の妥当性評価と必要に応じた人数調整では、T-URA の配置において成果がでている 年度末には、<u>計画にある「検証と見直しの状況」についても明記いただきたい</u>
	<p>4-②-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>—</p> <p><産学官連携本部></p>	<p>4-②-2-1 4-②-2-2</p> <p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画の主な KPI である外部資金獲得状況は共同・受託研究の件数以外昨年度同時期に比べ低い値となっている。本年度後半の成果を期待したい 4-②-2-2 について、専門人材数としてどの程度が最適で（4-②-1-1 にも関連するが）、現状ではどうなのか、明らかでない（進捗不十分） 多くの取組について、詳細に記載され、順調に推移していると判断できる 外部資金の獲得においては件数に伸びがあり進捗は順調と判断するが、獲得額の減についての原因分析等の記載が必要と思われる。また研究支援専門人材数の適正人数の考えが分かるとよい 年度末には、<u>計画にある「学内に周知」の状況についても明記いただきたい</u>
<p><中期目標 5></p> <p>研究水準の向上を図るため、適切な評価を実施する。</p>	<p>5-① IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化して、先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。</p> <p><産学官連携本部></p> <p>5-①-1 （目標を実現するための推進方策）</p> <p>IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化する。</p> <p><産学官連携本部></p> <p>5-①-2 （中期計画に記載の評価指標）</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>当該目標では「適切な評価を実施した結果、研究水準が向上した」としたいが、これを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい</u> <p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各取組みが順調に進んでいる <p>(検証結果)</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 <産学官連携本部></p>		<p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では財政的支援だけではなく、人的支援を行うとしているが、それに係る資源配分はなされているのか確認願いたい。 ・取り組みの成果を今後どのように戦略的な研究資源配分につなげていくのが課題である ・IR を活用したモニタリングはできているが、支援実績の記載が必要
--	--	---	--	---

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【社会貢献】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。</p>	<p>1-① 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い、卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立し、ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザリーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・当該計画の K P I は今のところ目標値等を達成しておらず、本年度後半の成果を期待したい（進捗不十分） ・当該計画では「卒業生の地域定着を推進するため」をあげており、その目標値達成がなされるよう、さらなる工夫をいただきたい（進捗不十分） ・文科省提出年度計画にあげた「一元的に管理する体制を構築」は達成できたのか明らかでない（進捗不十分） ・当該目標は「地域の人材養成と課題解決に寄与する」が目的となっており、其々の中期計画についてそれが達成できたとする具体的なエビデンスを検討いただきたい（進捗不十分） ・COC+事業に関する組織整備や取組は順調であるが、社会貢献活動に参加している教員の割合が目標値に届いていないことなど、KPI の面からは厳しい状況にある</p>
	<p>1-①-1 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント） ・1-①-1-1 について、当初年度計画で「一元的に管理する体制を構築」としているが、そのような体制が構築できたのか確認いただきたい（進捗不十分） ・1-①-1-3 について、概算に係る旧 KPI では基準値 85.4%、目標値 90%以上としていたが、年度中間の時点では基準値に足しておらず、本年度後半の伸びを期待したい（進捗不十分） ・社会貢献活動に参加している教員の割合が 82.13%と目標の 90%に届いていない。その要因の一つに活動の収集漏れがあると思われるが、関係部署の協力のみには頼るのではなく、事務の簡素化を兼ね、兼業申請手続き等が総合データベースに反映させる仕組みの構築も必要であろう</p>
	<p>1-①-2 ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザリーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-①-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・昨年度の事業協働地域就職率は目標値に達しておらず、本年度はそれを達成するためにどのような取組みがなされているのか明らかでない（進捗不十分） ・COC+の中間評価では高く評価されたのではないかと。これはこれまでの取組が優れていた証左と言える。今後、更なる成果を期待したい（進捗不十分）</p>
	<p>1-② 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させるとともに、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科</p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。また、グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋がるとともに、地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。</p> <p><COC 推進機構></p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部数値データはないが、進捗は概ね良好と思える。 当該計画は「社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与」、「次世代を担う人材創出」および「地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献」を目的としているが、その達成状況をどのように示すのか具体的なエビデンスを検討いただきたい 1-②-1 および 1-②-2 については、地域コア科目の必修化を伴うカリキュラムの見直し、「ふくい地域創生士」の認定と事後教育の実施、ならびに創生士および「ふくい地域創生アワード」創生士の認定基準の明確化などが順調に進捗している。一方、地元学生の受け入れについては、地域枠入試や奨学金制度が検討段階であること、卒業生の定着率については前年度から大きく低下し厳しい状況にある（進捗不十分） 生涯学習市民開放プログラムについては総括と見直しを行うべき時期にあると思われる（進捗不十分）
	<p>1-②-1 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させる。</p> <p><COC 推進機構></p>	<p>1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画では「地域志向・実践系科目数を増加させる」としているが、K P I として実際に増加しているのか確認いただきたい 当該計画の K P I となる「ふくい地域創生士」の資格修得者数は目標値を達しているのか確認願いたい（保留） 1-②-1-3 について、アクティブラーニング科目数は増加しているのか、それに連動して受講数は増加しているのか、さらに受講者の満足度は向上しているかなど、取組の進捗を示すデータを提示いただきたい（保留） 1-②-1-4 について、H31 までに社会人受講者 20 名以上を指標としているが、これまでの受講者数は目標値を達しているのか確認願いたい（保留） 1-②-1-5 について、参加者数 100 名以上、科目の整備 2 科目は達成されているのか確認願いたい（保留） 数値データがないため進捗の状況が明らかでなく、そのため「保留」とした（保留） 1-②-1-1 ○ 1-②-1-2：地域コア科目の必修化や「ふくい地域創生士」の認定は実現しているが、地域枠入試や奨学金制度は検討中であり早期の導入が望まれる。 1-②-1-3：アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）の要素を取り入れた科目は開講されているが、国際地域学部などで実践科目の効果の検証も必要であろう。
	<p>1-②-2 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続</p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>的發展に寄与する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-②-2-3</p>	<p>(コメント) ・1-②-2-3 について、ふくい地域創生士の地元定着率（ひいては県内就職者数の維持）は目標値と比べどのような状況か確認願いたい。また、準ふくい地域創生士とは何か ・1-②-2-1 ○ ・1-②-2-2 ○ ・1-②-2-3 ふくい地域創生士の地元定着率は 67%</p>
		<p>1-②-3 グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げる。 <地域貢献推進センター></p>	<p>1-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・様々な取組みが実施されており、成果もあがっている。 ・当初年度計画で「次世代人材育成支援活動参加教員の割合」を評価指標？としてあげられているが、これはどうなったのか ・1-②-3-1 ○</p>
		<p>1-②-4 地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。 <地域貢献推進センター></p>	<p>1-②-4-1 1-②-4-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・1-②-4-1 について、市民開放プログラムの科目数や受講者数が減少傾向にあるが、向上させるよう工夫願いたい。また、K P I として受講者等の満足度を上げているが、現状はどうか、向上しているのか等確認願いたい ・1-②-4-2 について、様々な取組みが行われているが、概算に係る旧 KPI (受講者数、満足度の向上) はどのようになっているのか確認願いたい ・1-②-4-1 生涯学習市民開放プログラム受講者は、B 群科目の廃止と受講者の高齢化により漸減が抑制できず、対応が不十分である ・1-②-4-2 医学系および教員養成系以外の分野での具体的キャリアアップ教育の成果が不十分である。</p>
		<p>1-③ 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元するとともに、地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。さらに地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させるとともに、福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 <COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・当該計画の主要な K P I は「<u>雇用創出と地域創生に貢献</u>」であるが、達成できたとする具体的なエビデンスを検討いただきたい ・文科省提出年度計画には「10 の WG において具体的な内容を実施する」としているが、それは以下の進捗状況の取組に含まれているのか明らかでない</p>
		<p>1-③-1 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元する。 <広報センター></p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・1-③-1-1 について、様々な広報活動が行われているが、その活動状況は昨年度よりも向上しているのか確認願いたい ・1-③-1-2 について、当初年度計画で挙げられている取組（「見せるか」システム整備）がなされていない。</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

				<ul style="list-style-type: none"> 1-③-1-1 大学 HP のページビュー回数が示されたが、その推移の分析も必要。 1-③-1-2 高校生・保護者の閲覧手段はスマホ主体であるため、それを前提とした情報発信の検討も望まれる。
	1-③-2 地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。 ＜COC 推進機構＞	1-③-2-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携事業数及び派遣教員数は昨年と比較して向上しているか確認願いたい。また、当初年度計画では「地域のニーズと大学のシーズのマッチング」をあげているが、これに関する取組や成果が明らかでない ・1-③-2-1 ○ 	
	1-③-3 地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させる。 ＜COC 推進機構＞	1-③-3-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの部局で、重点分野の研究・教育が進められている ・国際地域学部の課題探求プロジェクトの点検・評価が必要 	
	1-③-4 福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 ＜COC 推進機構＞	1-③-4-1	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「それぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献」としているが、福井大学発商品の開発（それ自体は大きな成果ではあるが）は必ずしも関連しないのではないかと（進捗不十分） ・当初年度計画では様々な取組みが予定されているが、それらが実施されているのか明らかでない（進捗不十分） ・当該計画では「地方創生推進事業参加大学の連携」がキーワードの一つとなっているが、これに係り取組み・成果が明らかでない（進捗不十分） ・本学と COC+参加大学が強みを持つ分野での共同研究等の成果は限られており、その促進が必要である 	
<p>＜中期目標 2＞ 地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上</p>	2-① 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8,000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。そのため、第 3 期中期目標期間中に、教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。学校教育課程においては、教員養成機能を重視した組織改革を進め、第 3 期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。 ＜教育学部＞		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく寄与するもので、十分な成果を期待したい。これに関連し、「地域の教育力が向上した」ことを示すエビデンスを検討願いたい ・教員就職率の評価指標達成は困難な状況と思われる（進捗不十分） 	
	2-①-1 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8,000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。 ＜教育学部＞	2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-1-2 については、実績値はまだ確定しないと思うが、それ以外の取組については目標値等を達成している 	

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

並びに産業の発展に繋がるイノベーション創出を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献する。			<ul style="list-style-type: none"> ・2-①-1-1 ○ ・2-①-1-2 学部ならびに大学院の教員就職率の評価指標達成は困難な状況 ・2-①-1-3 教職大学院修了者の就職率
	2-①-2 教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。 <教育学部>	2-①-2-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保」としており、現状ではどの程度確保できているのか確認願いたい ・学校教育支援がなされているが、評価指標としてあげている「活動について、年平均各教員 1 回以上」はいかがか</p>
	2-①-3 教員養成機能を重視した組織改革を進め、第 3 期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。 <教育学部>	2-①-3-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・実績値はまだ確定しないと思うが、それに向けた取組みがなされている ・学部卒業生の合格状況が示されているが、教職大学院修了者のそれも示すべき</p>
	2-② 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。加えて関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 <医学部>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっている、法人評価に大きくかわるので、十分な成果を期待したい。特に、「<u>地域医療の向上に貢献できたとするエビデンスを</u>」とするより具体的なエビデンスを検討願いたい ・当該計画の K P I としてあげた「地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増」については、どのような状況か随時把握願いたい ・他職種参加型セミナーなど、開催計画、予定が組まれているが、その成果および、その実効性が不明なものが多い。IPE 実習など学生の参加者数の数値目標が不明であり、目標に達したかの評価が困難である。（進捗不十分）</p>
2-②-1 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。 <医学部>	2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-②-1-1 について、予定の取組が進められているが、受講者数及び満足度は向上しているのか明らかでない ・2-②-1-3、-4 について、昨年度同時期に比べ、取組数、参加者数は増加しているのか確認願いたい。また、後者について、文科省提出年度計画では「医道審議会の 2 か所以上参画」としているが、ここで挙げた件数は参加者数なのか確認願いたい ・多職種参加型教育セミナーのほとんどが計画中となっているだけでありその参加者数やその参加者の満足度など、その企画の実効性が評価できていない ・IPE 実習に関しては、看護学生および医学生の単位取得者が出たことは評価できるが、学生全体に占める割合が少ない</p>	

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<ul style="list-style-type: none"> 講演会、地方自治体との連携事業などの取り組みを 20%増とした数値目標は達成できている（進捗不十分）
	<p>2-②-2 さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。 <医学部></p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-②-2-1 について、実証試験としては何件実施したのか確認願いたい センシング型見守りセンサーに関しては、昨年度進捗が芳しくなかったが、本年度に入り、進捗がみられてた点は評価できます。ただ、昨年度の遅れをとりもどす努力が必要と思われます。
	<p>2-②-3 関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 <医学部></p>	<p>2-②-3-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井メディカルネットの利用促進会開催による実質的効果が不明である。ACP 情報の共有を提案してはいるが、その結果が不明である。
	<p>2-③ 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。さらに、知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出に繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 <産学官連携本部></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画の目的である「持続的な技術移転や共同研究成果の創出」に係る具体的な成果を期待したい。
	<p>2-③-1 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。 <産学官連携本部></p>	<p>2-③-1-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の複数企業、団体が参加する共同研究の現状が不明 当初年度計画であげた「集合イベントや個別コンタクト意見交換」の回数等は予定どおりなのか確認願いたい 「研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信」の状況はいかがか
	<p>2-③-2 知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出につなげ繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 <産学官連携本部></p>	<p>2-③-2-1 2-③-2-2 2-③-2-3 2-③-2-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-③-2-1 について、K P I の目標値に実績値は達しており、進捗は良好である 2-③-2-2 について、協力会分科会活動に係るセミナー件数等は当初予定どおりか確認願いたい 2-③-2-3 について、技術相談件数は目標値に達しているなど、進捗は良好である 2-③-2-1 進捗状況の記述で共同研究件数が 169/194 件とあるが、169 件が地域との共同研究と理解して良いなら順調に推移している 2-③-2-2 ○

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<ul style="list-style-type: none"> ・2-③-2-3 ○ ・2-③-2-4 評価指標の「地域の産学官が共用できる設備数の増大(50 設備程度)」を文字通り実現することは難しいのではないか？評価指標の修正が必要と思われる。
2-④	<p>地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進するとともに、地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させるとともに、第 3 期中期目標期間を通じて全学的に自治体や企業、学校、諸団体との教育・研究の連携を推進し、連携授業および共同研究の連携先数を増加させる。</p> <p><国際地域学部></p>		<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっている、法人評価に大きくかわるので、十分な成果を期待したい。(進捗不十分) ・細分化した計画の中に進捗不十分となる計画があるため、全体の進捗を不十分と判断した(進捗不十分) ・当該計画の主な K P I は「連携授業および共同研究の連携先数の増加」であり、この指標に関する実績はどうか確認願いたい(進捗不十分) ・本計画では国際地域学部が先導すべき内容であるが、共同研究実績が未記入であること、地域と連動した課題解決型科目の成果に対し厳しいコメントがあげられていることなど改善すべき事項が見受けられる。地域連携協議会の大学院設置構想に対する意見をどのように反映するのか？(進捗不十分)
	<p>2-④-1 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進する。</p> <p><国際地域学部></p>	2-④-1-1	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究」がどの程度進んでいるのか明らかでない。例えば、実施研究数やその成果などを確認願いたい。その際、地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題との関連も明らかにしていただきたい(進捗不十分) ・国際地域学部の自治体との連携実績や共同研究成果が未記入
	<p>2-④-2 地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。</p> <p><国際地域学部></p>	2-④-2-1	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に目標の連携先延べ数を超えているが、さらに向上しているのか確認願いたい ・「地域創生の核となる人材が育成できた」ことを示すエビデンスを検討願いたい ・連携先の数の上では○
	<p>2-④-3 国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させる。</p> <p><国際地域学部></p>	2-④-3-1	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○地域連携協議会は実施され取組のチェックが行われていることを確認したが、現在の状況を見ると、アドバイザーボードとしては機能していないように思われる

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 国際通用性の高い世界に開かれた大学に改革し、世界で活躍できる高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント)</p>
	<p>1-①-1 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増やす。 <国際センター> <全学グローバル人材育成推進委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1～4) 1-①-1-2 (1-①-1-2-1～3) 1-①-1-3 1-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・海外協定校数の目標値をすでに大きく超えており、順調に進捗している ・海外協定校数が、第 2 期中期目標期間末(H28.3)大学間協定 36 校、部局間協定 52 校、計 88 校であったが、H30.10.1 現在で 34 ヶ国・地域の計 153 校（大学間協定 83 校、部局間協定 70 校）となっている</p>
	<p>1-② 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心として、外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備、ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築、ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充、外国語による情報発信の強化を推進し、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく寄与するものであり、十分な成果を期待したい ・具体的な方策としてあげている事項については、少なくとも成果が示せるよう検討願いたい</p>
	<p>1-②-0 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心とした次の具体の取組により、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増やす。 <国際センター></p>	<p>1-②-0-1 (1-②-0-1-1～5) 1-②-0-2 1-②-0-3 1-②-0-4 1-②-0-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・受入外国人留学生数の目標値をすでに超えており、順調に進捗している。派遣学生数の伸びも順調と思われるが、短期、中長期と分けた場合の后者の派遣学生数は向上しているのか、確認いただきたい ・当該計画では「国際地域学部を中心とした次の具体の取組により」としているが、これを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい ・受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 175 名であったが、H30.10.1 現在で 234 名となっている。（中間進捗状況時 236 名であったが、留学辞退及び在籍期間が満了した者がいたため修正）海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 206 名であったが、H30.9.30 現在で 176 名となっている</p>
	<p>1-②-1 外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備を行う。 <国際センター></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1～4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・それぞれの部局で外国人留学生を受け入れているが、当該計画では「海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備」をあげており、これらに係る取組み・成果が明らかでない ・ツイニングプログラムを拡充するとしているが、その成果は上がっているのか</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<ul style="list-style-type: none"> ・学術交流協定校からの交換留学生に、福井大学基金を利用し奨学金の枠を設け、平成 30 年度後期の受入学生から給付を実施する予定である ・より多くの海外派遣学生に奨学金を給付できるよう、次年度以降の JASSO 奨学金のあり方について、H30.8 月の国際センター運営委員会にて議論を始めた
1-②-2	ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築を行う。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞	1-②-2-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナンバリングやカリキュラムマップは整備されているが、それが留学生に役立つかたち（英語化など）となっているのか確認いただきたい ・当該計画の 1 つの K P I は「留学生に役立つ」であり、それを示すエビデンスを検討いただきたい
1-②-3	ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充を行う。 ＜国際地域学部＞	1-②-3-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際地域学部では U C L A N とのダブル・ディグリー制度の構築を進めているが、是非遅くとも来年末までに構築いただきたい（法人評価対応のため） ・調整中とのことであるが、どの程度の実現可能性があるのかよくわからない
1-②-4	外国語による情報発信の強化を推進する。 ＜広報センター＞	1-②-4-1 1-②-4-2	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語 H P のアクセス数をフォローいただきたい。また、これら情報発信が留学生にどの程度利用されたかもエビデンスとなるではないか（進捗不十分） ・文科省提出年度計画では「国際交流・留学関連情報を追加・充実する」としているが、それに係る取組みがなされているのか明らかでない（進捗不十分） ・平成 30 年 3 月末に、内容を充実させ英文パンフレットを国際課と広報室にて共同し作成した。2019-2020 年度版についても、広報室と協働し、各学部等へ原稿依頼を行っているところである
1-②-5	学生の国際交流を一層盛んにするために、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15% 増やす。 ＜国際センター＞	1-②-5-1～16	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部局で様々な取組みによって国際交流を進め、その結果留学生数及び派遣学生数はすでに目標値をクリアしており、十分成果があがっている ・受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 175 名であったが、H30.10.1 現在で 234 名となっている。（中間進捗状況時 236 名であったが、留学辞退及び在籍期間が満了した者がいたため修正）海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 206 名であったが、H30.9.30 現在で 176 名となっている
1-③	教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用、現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を		<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>(コメント) ・文科省提出年度計画にあげた「平成 30 年度に強化するグローバル化活動を決めてその活動を重点的に支援する」に係る取組みがなされているのか明らかでない ・当該計画の K P I であるグローバル化活動数の状況が明らかでない（進捗不十分）</p>
	<p>1-③-1 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用を行う。 <人事会議></p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2 (1-③-1-2-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・当該計画に沿った教員および職員が第 2 期末に比べどのくらい増加したのか、定量的なデータの収集をお願いしたい。</p>
	<p>1-③-2 現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増やす。 <国際企画会議></p>	<p>1-③-2-1 (1-③-2-1-1~5) 1-③-2-2 (1-③-2-2-1~4) 1-③-2-3 (1-③-2-3-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である (コメント) ・1-③-2-2 について、教員のグローバル化活動数はどのように算出されているのか、周知しているのでしょうか。第 2 期末と比較して 20%増を目標値としているが、現状はどの程度になっているのか明らかでない（進捗不十分） ・1-③-2-3 について、サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動については人数とともに、研究成果もエビデンスとして出せるように検討願います（進捗不十分） ・教員のグローバル化活動数の把握のために、総合データベース(DB)に入力するよう平成 30 年 6 月 18 日に依頼(7 月末期限)したが、入力状況があまり芳しくなかったため、再度 10 月 29 日(11 月末期限)に再依頼を行った ・グローバル活動数を集計する手段を総合データベースに組み込んだが、回答する教員数が少ないため、定量的に評価できていない状況である。現在、各部署の教授会で直接、入力を依頼した（11 月末が期日）（進捗不十分）</p>
	<p>1-④ 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築し、さらに大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 <附属国際原子力工学研究所></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」であり、法人評価に大きく寄与することから、十分な成果を期待したい ・当該計画では、「原子力人材育成プログラム」および「原子力人材育成国際プログラム」を構築・確立することとしており、それらの体系的などを見やすいような形で明示できるよう検討願いたい</p>
	<p>1-④-1 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築する。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-④-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・当初年度計画にあげた取組みが順調になされており、成果があがっている。特に、文科省事業に採択されたのはその証左と言える ・当該計画では平成 31 年度までに原子力人材育成プログラムを構築するとして</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

				おり、カリキュラムマップなど体系的なプログラムであることを示せるようにしていただきたい。そのためには、3 ポリシーの策定も必要ではないか、検討いただきたい
		1-④-2 大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 ＜附属国際原子力工学研究所＞	1-④-2-1	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・当初年度計画にあげた取組みが順調になされており、成果があがっている。外国人留学生等の受入を進めているが、その数は向上しているか確認いただきたい ・当該計画では「英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立」としており、その確立状況はいかがか ・当該計画の K P I は「世界で活躍する高度専門職業人の育成」であるが、育成数、能力の涵養状況、関係者の満足度など、目的の人材が育成できたとするエビデンスを検討いただきたい
＜中期目標 2＞ 地域のグローバル化を牽引する核となる大学になる。	2-① 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業の実施、留学生の地域交流活動数の増加（第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増）、さらに、グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 ＜国際企画会議＞			（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・当該計画は「地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献」が目的であり、貢献できたとするためのエビデンスをいかにするか検討いただきたい
		2-①-1 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業を実施する。 ＜国際センター＞ ＜ライフサイエンスイノベーションセンター＞	2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・2-①-1-1 について、取組は順調に進められ、成果があがっている。当初年度計画で「～体制を一層充実させ、全国に向けて発信する体制を構築」をあげているが、これに係る取組みがなされているのか明らかでない ・2-①-1-2、-3 について、多くは「～検討を開始した」など準備段階の取組が多く、具体的な成果は今のところあがっていない。特に、後者において「入試特別枠を国際地域学部で実施」となっているが、実際に実施するのか
		2-①-2 留学生の地域交流活動数の増加（第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増） ＜国際センター＞	2-①-2-1	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・当該計画の K P I は「留学生の地域交流活動数の増加」であり、現状の数値を明記していただきたい。また、現状は昨年度同様としているが、20%増は達成できるのか検討いただきたい ・従来、福井県と福井市の 2 団体を中心に進められてきた国際地域交流活動に、複数の周辺市町の公立及び民間交流団体を加え交流地域の範囲拡大に努めており、それに伴い留学生を派遣する地域交流活動の種類も増えてきている
		2-①-3 グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。	2-①-3-1 2-①-3-2	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p><地域貢献推進センター></p>	<p>2-①-3-3 (2-①-3-3-1~4)</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-3-1,2 について、参加者の満足度も聴取願いたい。また、参加者は経時的に増加しているのか確認したい ・2-①-3-3 について、当該計画の K P I は交流の機会数、開講数、参加者数、満足度等であるが、それは経時的に向上しているのか確認したい
	<p>2-② 海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップや、外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 <国際企画会議></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画の目的は「グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献」であり、貢献できたとするためのエビデンスをいかにするか検討いただきたい（進捗不十分）</p>
	<p>2-②-1 海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 <産学官連携本部></p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・日本人学生の海外インターンシップの実績がこれまではあがっておらず、本年度後半に派遣されるのか明らかでない（進捗不十分） ・2-②-1-1 について、当該計画では「海外拠点を持つ地元企業と連携した」としているが、これに係る取組みがなされているのか明らかでない（進捗不十分） ・2-②-1-2 について、海外インターンシップの実績は昨年度のものであり、本年度はこれまで実施されていない（進捗不十分）</p>
	<p>2-②-2 外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 <国際センター></p>	<p>2-②-2-1 (2-②-2-1-1~4) 2-②-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「人材育成プログラムの構築と実施を推進」としているが、今回の進捗状況からはそれがどの程度達成されているのか明らかでない（進捗不十分） ・「外国人留学生と地元企業とを早期にマッチング」はなされているのか明らかでない（進捗不十分） ・福井県では、福井県、福井商工会議所、福井県国際交流協会及び地元銀行が主催し、本学を含む県内 3 大学が協力して、外国人留学生向けに合同企業説明会を平成 29 年度から実施した。県内の海外展開に目を向け外国人留学生の採用に関心のある企業が、一堂に集結し、2 年目となる平成 30 年度は 4 月 15 日（日）午後開催した。福井県内の企業に就職が決定した留学生には、就職までの期間（最大 6 か月間）、福井県から住宅費相当額が支給される</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【業務運営】 中期目標	中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標			
1 組織運営の改善に関する目標			
<p><中期目標 II-①> 本学の諸機能を強化するため、ガバナンス機能の強化、人事・給与制度の弾力化、学内資源の戦略的配分等を推進する。</p>	<p>II-①-1 学長のリーダーシップのもと、本学の教育・研究・医療・社会貢献等の機能を強化できるようガバナンス体制の点検、見直しを継続的に行うとともに、IR 体制を強化し、財務データの分析等により、戦略的・効果的な資源配分を行う。 <経営戦略課><財務課></p>	<p>II-①-1-1 II-①-1-2 II-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・II-①-1-2 について、昨年度設定したファクトブックが未だ十分に活用されていないのではないか ・II-①-1-3 について、様々な財務データが収集されつつあるが、それに基づく重点的な資源配分の実績を提示できるようにしていただきたい ・II-①-1-1 について、検討を進めていることは分かるが、何処が中心となってどういうメンバーで検討しているのかが分からないため、具体性に欠ける。 <u>年度末の進捗状況入力の際は、検討結果の実質化を期待する</u> ・II-①-1-2 について、<u>年度末の進捗状況入力の際は、旧 KPI 以外の特徴 KPI についても、活用状況等をお示し願いたい</u> ・II-①-1-1 で次期学長の選考手続について書かれているが、これが「ガバナンス機能を活かした大学運営」とどのように関係するのか分からない。<u>関係するのであれば、年度末には関係性が分かるように記載していただきたい。</u></p>
	<p>II-①-2 女性、若手、外国人・国際経験のある教員を積極的に登用し、教育研究の活性化を図る。また、構築した年俸制適用教員に係る業績評価等について検証するとともに、年俸制およびクロス・アポイントメント制度などの混合給与を促進する。なお、若手教員については、引き続き若手教員の雇用に関する計画に基づき、雇用拡大を推進し、若手教員の割合を平成 32 年度末までに医学部においては 16% 以上、工学研究科においては 14% 以上にそれぞれ向上させる。また、女性の管理職等の割合を平成 33 年 4 月 1 日までに役員 11.1% に、管理職 10.9% 以上に向上させる。 <人事労務課></p>	<p>II-①-2-1 II-①-2-2 II-①-2-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・II-①-2-1 について、文科省提出年度計画では「クロスアポイントメント制度による外国人教員の雇用拡充」をあげているが、外国人の受入れ状況は向上しているのか、確認願いたい ・II-①-2-2 について、平成 30 年 4 月のデータが提示されているが、年度中期のデータを示していただきたい。変化していなければ結構です ・II-①-2-3 についても、同様に現時点でのデータを確認していただきたい ・II-①-2-1 について、他機関の勤務経験者の割合を昨年度と殆ど変わらなくても数値で示すべきであり、他機関から採用することは「頭脳循環」を目指していることもあると思われるため、増員するための方策があれば記述してはどうか ・II-①-2-2 及び II-①-2-3 について、目標を既に達成しているが、雇用拡大したことによって得られた波及効果を記述できないか ・II-①-2-1 のうち、「他機関の勤務経験を有する教員数の増加」については、教員数が増加しない要因が書かれているだけである。別途確認も行ったが、「他機関の勤務経験を有する教員数の増加」を目指すための具体の取組が行われているとは読み取れず、教員数も増加していない。進捗状況が不十分であると判断せざるをえない。 ・II-①-2-2、II-①-2-3 については良好である。（進捗不十分）</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

2 教育研究組織の見直しに関する目標			
<p><中期目標Ⅱ-②> 本学の機能強化に繋がる教育研究組織の見直しを全学的視点から戦略的に推進する。</p>	<p>Ⅱ-②-1 全学の機能強化や各分野のミッション等を踏まえ、教育研究等組織の見直しを行う。このうち、学部においては、全学的な視点から、第3期中期目標期間当初に地域創生に資する国際地域学部を創設する。大学院においては、平成 32 年度末までに教育学研究科を教職大学院に一本化し、実践型教員養成機能への質的転換を推進するとともに、工学研究科博士前期課程を改組し、学部一修士一貫教育を意識した教育課程を構築する。 <経営戦略課></p>	Ⅱ-②-1-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
		Ⅱ-②-1-2 Ⅱ-②-1-3 Ⅱ-②-1-4 Ⅱ-②-1-5 Ⅱ-②-1-6	(コメント) ・Ⅱ-②-1-6 について、評価結果に基づく組織の見直しについての記述が無いように思うが、検討する予定がないのか ・Ⅱ-②-1-6 は、「資源配分の検討を行う」という計画に対して、「まだ検討できていない」ということであり、不十分と判断せざるをえない ・Ⅱ-②-1-7 については、別途確認したところ、大学院の新設の有無がまだ機関決定されていないということであり、その前提で考えると進捗状況は概ね良好と考えられる。ただ、具体的取組の計画の記載では、「新設する」となっており、新設することが決定事項のように見える。今からでも修正可能であれば、計画を修正していただいた方がよい（進捗不十分）
3 事務等の効率化・合理化に関する目標			
<p><中期目標Ⅱ-③> 事務局改革と人づくりを進め、事務局機能を強化する。</p>	<p>Ⅱ-③-1 第2期中期目標期間に導入した経営品質活動の取組みについて、平成 28 年度に検証、31 年度までに改善・改革を実施し、自主的・自律的な改善・改革活動に継続的に取り組む事務局づくりを推進する。 <総務課></p>	Ⅱ-③-1-1	(検証結果) 進捗状況が良好である
			(コメント) ・様々な改善・改革がなされている。当該計画では「31 年度までに改善・改革を実施」となっており、現状までの改善・改革はどの程度の達成状況なのか明らかにしていただきたい ・経営品質活動の取組について、その一環として各課・室で改善・改革活動が成されていることが窺える
	<p>Ⅱ-③-2 事務局職員の職務能力の開発・向上に引き続き取り組むとともに、高度な専門性を有する多様な人材の確保やグローバル化に対応できる職員を育成するために、隔年毎に、職階別研修（係長、中堅職員、契約・パート）と職務における専門能力の向上のためのスキル別研修を実施する。 <人事労務課></p>	Ⅱ-③-2-1 Ⅱ-③-2-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
			(コメント) ・進捗率 20% であるが、本年後半に職階別研修やスキル別研修が予定されている。当該計画では「事務局職員の職務能力の開発・向上」および「高度な専門性を有する多様な人材の確保やグローバル化に対応できる職員の育成」を目的としているが、そのような能力が向上したのか、人材が育成できたのか、それらを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい ・Ⅱ-③-2-1 について、点検・検証・改善が行われていることは窺えるが、満足度が高い評価とは、何を基準として高い評価なのか分からない ・Ⅱ-③-2-2 について、 <u>病院事務検討会開催後の成果（レベルアップや業務効率化）</u> について具体例があれば、 <u>年度末の進捗状況入力の際にお示し願いたい</u> ・Ⅱ-③-2-1 については、別途確認した結果、「点検及び検証」の状況が検証できた。 <u>年度末の入力時には、「点検及び検証」の状況を明記していただきたい</u>
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標			
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標			

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<p><中期目標Ⅲ-①> 自己収入を増加させ安定的な大学運営を推進する。</p>	<p>Ⅲ-①-1 教育研究診療活動等の充実・強化のため、必要な組織・体制の見直しを行い、自己収入を増加させて安定的な大学運営を推進する。特に、多様なステークホルダーを募金対象とする「福井大学基金」については、募金活動に関する取組みの強化を図り、寄附金を着実に増加させる。 <研究推進課></p>	<p>Ⅲ-①-1-1 Ⅲ-①-1-2 Ⅲ-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> Ⅲ-①-1-1 について、当初年度計画に予定された 1) および 3) の取組がなされていない Ⅲ-①-1-3 について、実績もともかく、進捗状況の記載が優れている。今後の進捗状況の記載に際し、優れた事例となる Ⅲ-①-1-1 について、<u>RA 活動従事者の妥当性評価や研究支援専門人材の研修・育成プログラムの参加実績の検証と見直し等が行われているのか否かが分からないので、年度末の進捗状況入力の際にお示し願いたい。また、このフレームは、外部研究資金の獲得でもあるので、取り組んだ結果、資金獲得にどう及んだのかもお示し願いたい</u> Ⅲ-①-1-3 は、「進捗状況が良好である」 Ⅲ-①-1-1 の具体の取組の計画の 1 点目については、別途確認した結果、概ね良好と判断した。3 点目については、別途確認したものの「検証と見直し」が行われておらず、進捗状況が不十分と判断した。なお、<u>2 点目、3 点目については、特に「検証と見直し」の状況について年度末には明記いただきたい（2 点目については、ある程度読み取れる部分もあるが、より明確に記載をいただきたい）。</u>（進捗不十分） Ⅲ-①-1-2 及びⅢ-①-1-3 については、概ね良好と考えられる（進捗不十分）
<p>2 経費の抑制に関する目標</p>			
<p><中期目標Ⅲ-②> 効率的な法人運営を行うため、人件費改革や管理的経費等の削減により経費の抑制を推進する。</p>	<p>Ⅲ-②-1 IR 機能を強化して、財務情報を戦略的に分析し、経費を抑制するとともに経費抑制のための業務改善に取り組む。また、エネルギー経費や施設・設備の更新経費抑制に向けた戦略を策定し、実施する。 <財務課><経理課><環境整備課></p>	<p>Ⅲ-②-1-1 Ⅲ-②-1-2 Ⅲ-②-1-3 Ⅲ-②-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> Ⅲ-②-1-1 について、当初年度計画に予定された取組がなされていない。また、平成 26 年度役員会決定方針の見直しをすすめているが、対象となる方針はすでに時機を逸したものではないか Ⅲ-②-1-2 について、当初年度計画に予定された取組が十分なされている。なお、当該計画の K P I は「管理的経費等の削減により経費の抑制」であり、様々な取組みによって、全体としてどのくらい削減できたかを確認いただきたい Ⅲ-②-1-3,4 について、当初年度計画に予定された取組が十分なされており、成果もあがっている Ⅲ-②-1-1 について、人件費改革の取組が進んでいるのか、検討もしていないのかが分からない。<u>このフレームは、経費の抑制であるので、人件費削減のための新たな取組があれば、年度末の進捗状況入力の際にお示し願いたい。</u> Ⅲ-②-1-2 について、クレジットカードポイントの利用や環境 ISO との連携が進んでいるのかどうか分からない Ⅲ-②-1-1 については別途確認して状況が多少分かったが、<u>年度末の入力時には「必要に応じて見直しを行う」の状況を明記いただきたい。</u>（見直しの必要

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>が無い場合もあると思われませんが、その場合はその旨を記載いただきたい（保留）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-②-1-2 の経理課の 4 点目の計画「環境 ISO～」については、別途確認したものの、「学内周知」の状況が分からなかった。<u>年度末の入力時には、具体的な取組の計画に挙げている事項については、進捗状況を明記いただきたい</u>（保留） ・Ⅲ-②-1-3 については、15%削減目標のところ 10%の削減にとどまっているとのことであり、進捗状況が不十分と考えられる（<u>電気代の高騰などによって、致し方ない部分があるのであれば、記載をいただきたい</u>）（保留） ・Ⅲ-②-1-4 については、<u>具体的な取組の計画に記載のある「規格統一化による経費削減」の状況について記載がない。年度末の入力時には「規格統一化による経費削減」の状況について必ず明記をいただきたい。</u>（保留）
3 事務等の効率化・合理化に関する目標			
<p><中期目標Ⅲ-③> 教育研究等の質の向上等のため、流動資産および固定資産の有効活用を推進する。</p>	<p>Ⅲ-③-1 資金（運営費交付金、授業料等自己収入、産学連携等研究費、受託事業費、寄附金における資金）の運用計画に基づき、資金を元本割れがないよう安全かつより利息の高い運用商品や金融機関を選択し、運用する。 <経理課></p>	Ⅲ-③-1-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・計画した取組が成されており、運用益が期待される</p>
	<p>Ⅲ-③-2 全学的に施設の有効な活用を促進し、計画的な維持管理の継続的な点検・見直しを行い、教育・研究の環境改善等を行うとともに、大学が保有する固定資産（施設等）を教育研究に支障のない範囲で学外者に有償で貸付ける等の有効活用を行い、自己収入の増加に繋げる。 <施設企画課> <経理課></p>	Ⅲ-③-2-1 Ⅲ-③-2-2	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・Ⅲ-③-2-2 について、当初年度計画に予定された取組が十分なされており、成果もあがっている。また、<u>定量的データも随時フォローされており、進捗状況が検証しやすい。</u>なお、当該計画の様々な取組みによって全体としてどの程度自己収入が増加したのかを示すデータも添付いただきたい ・計画した取組が成されており、増収が期待される ・Ⅲ-③-2-2 について、貸出料金の減について別途確認したところ、大口先の使用回数減によるもので、広報の充実活動の影響では無いとのことであったが、その根拠は分からなかった（広報が充実して新規利用が増えていれば、貸出料金が減らなかったのでは、など、広報の充実活動の影響があった可能性もあると思われるが、その点で納得できる記載は無かった）。<u>計画に「施設等のさらなる有効活用について検討する」とあるため、実績を踏まえ、有効に活用できているかどうかの分析と、分析を踏まえた対応策についても記載をいただきたい</u>（言うは易しで簡単なことではないかもしれませんが、経理課としてのお考え（論拠）は記載をいただきたい）（保留）</p>
IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標			
1 評価の充実に関する目標			
<p><中期目標Ⅳ-①> 教育研究等活動の活性化に資する適切な評価制度の構築を推</p>	<p>Ⅳ-①-1 教育研究等活動の更なる活性化や大学運営の改善に資するため、平成 28 年度末までに全学的に IR 機能を整備し、業務の分析・評価体制を充実・強化する。さらに、分析結果を基にした資源配分を行う。 <経営戦略課></p>	Ⅳ-①-1-1 Ⅳ-①-1-2	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・分析結果を基にした資源配分ができたとするエビデンスを検討いただきたい</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<p>進する。</p>	<p>IV-①-2 教育研究等の活性化に資するよう教職員の評価制度に基づく評価結果や優れた業績を人事評価上の処遇へ反映させるなど、一層の適正化を進める。 <人事労務課></p>	<p>IV-①-2-1 IV-①-2-2</p>	<p>・IV-①-1-1 について、中期計画等の進捗管理のために、どのような形で見える化を考えているのかをお示しいただくとよい</p> <p>・IV-①-1-1 について、この進捗状況評価の仕組みが機能していると思えない。計画に対する進捗が書かれておらず、進捗状況が把握できないケースが多すぎる。（進捗不十分）</p> <p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <p>・IV-①-2-2 について、当初年度計画では制度の検証・見直しを行うことになっているが、該当する取組がなされていない（進捗不十分）</p> <p>・IV-①-2-2 について、評価制度の検証が行われているのか。或いは、現在は見直し必要性がないため、検証を行っていないのか</p> <p>・IV-①-2-2 について、「必要に応じて見直しを行う」の状況について別途確認し、概ね良好であると判断した。年度末の入力時には「必要に応じて見直しを行う」の状況を当初から明記いただきたい。（見直しの必要が無い場合もあると思われませんが、その場合はその旨を記載いただきたい）。</p>
<p>2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標</p>			
<p><中期目標IV-②> 国立大学法人として、教育研究等の成果や大学運営の状況を積極的に社会に発信する。</p>	<p>IV-②-1 本学の教育研究等活動の状況や地域における役割等について、大学ポータル等を活用し積極的に社会に情報発信するとともに、外国語によるホームページの充実等により国際的な広報活動を展開する。 <広報室></p>	<p>IV-②-1-1 IV-②-1-2</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <p>・IV-②-1-1 について、広範な広報活動がなされているが、当初年度計画であげた「大学ポータルでの情報発信の検証・見直し」はどうか明らかなでない</p> <p>・IV-②-1-2 について、当初年度計画で予定している「情報発信の方法の再検討」、「新体制となった組織における教育研究活動等について～」に係る取組はなされているのか明らかなでない。特に、文科省提出年度計画では「必要な検証を行う」としており、具体的な検証がなされているのか明らかなでない</p> <p>・情報発信の実績とその成果を適宜あげていただきたい</p> <p>・IV-②-1-1 及びIV-②-1-2 について、共に積極的な広報活動が成されている。年度末の進捗状況入力の際には、これらの広報活動による波及効果についてお教えいただきたい</p> <p>・IV-②-1-1 について、進捗状況自体は概ね良好であると判断した。ただ、計画の「大学ポータルでの発信情報について、随時検証を行い、必要な見直しを行う」の部分について別途確認したところ、「大学ポータルは、大学からは決まった項目に情報を入れていくだけのものである」との回答であった。回答のとおりと思うが、それであれば、そもそも計画が不適切ではないか（大学ポータルでの発信情報を大学で見直すことはできないのではないか。ありうるとすれば、大学ポータルで発信できる項目のうち、どの項目についてデータを登録し、どの項目についてはデータを登録しないか、という判断かと思うが、国立大学法人である以上、全項目のデータを登録す</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>る以外の選択肢はないのではないか)。</p> <p>・IV-②-1-2 について、別途確認したものの、具体的取組の計画の 1 点目についての回答は無く、2 点目についても、回答は「平成 28 年度～等について、広く社会に情報公開する」というもので実績が不明あり、進捗があったとは思えないため、進捗状況は不十分であると判断せざるをえない。（進捗不十分）</p>
V その他業務運営に関する重要目標			
1 施設設備の整備・活用等に関する目標			
<p><中期目標V-①> 施設設備面のマネジメントを強化し、教育研究等環境の改善充実を推進する。</p>	<p>V-①-1 教育研究等の環境改善を推進するため、キャンパスマスタープランについて、随時学内委員会で検討を行い、必要に応じ修正する。既存施設の状態については、施設整備計画を基に、毎年度点検・見直しを行うことで、省エネルギーを含めた維持管理および施設整備を推進する。また、既存施設の有効利用を進めるため、学長のリーダーシップ等により、スペースチャージ制度によるスペースの確保と再配分を一層推進し、教育研究活動の活性化を図る。 <施設企画課></p>	<p>V-①-1-1 V-①-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・V-①-1-2 は中期計画Ⅲ-③-2 に相当 ・キャンパスマスタープランの策定やスペースの有効活用等によって、教育研究活動の活性化が図れたかどうかは、何をもって測るのか ・V-①-1-2 については、別途確認した結果、「点検・見直し」の状況がある程度判明した。<u>年度末の入力時には、「点検・見直し」の状況を明記していただきたい</u></p>
2 安全管理に関する目標			
<p><中期目標V-②> 学生および教職員の安全管理を強化するための取組を推進する。</p>	<p>V-②-1 学生の修学環境について、定期的な点検を行い必要な改善を実施するとともに、教職員相互による安全管理に関する自主的な点検・改善を推進し、教職員の安全管理に関する意識向上を図ることにより、法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少させる。 <人事労務課> <教務課></p>	<p>V-②-1-1 V-②-1-2 V-②-1-3 V-②-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画で予定された取組がなされているが、当該計画のK P Iは「法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少」であり実際に減少しているのかデータを示していただきたい ・「教職員相互による安全管理に関する自主的な点検・改善」は具体的にこなされているのか明らかでない ・文科省提出年度計画であげている松岡地区の巡回点検システムは改修されたのか明らかでない ・全体的に【成果】の記述はインプットであり、それによってどのような効果が得られたかを書いた方がよい。安全管理に関する自主的な点検や改善は行われているが、教職員の安全管理に関する意識が向上しているのかが分からない ・V-②-1-1、V-②-1-3、V-②-1-4については、別途確認して状況が判明したものの、<u>年度末の入力時には、見直しや改善の状況を明記していただきたい(計画に記載した事項については、1対1で進捗状況を記載していただきたい)</u></p>
3 法令遵守等に関する目標			
<p><中期目標V-③> 法令遵守等を徹底す</p>	<p>V-③-1 監事の権限強化に伴い、サポート体制を充実させる。さらに、法令遵守（コンプライアンス）並びに公的研究費の不正使用防止のための教育や研究活動の不正行為防止のための研究倫理教育を着実に</p>	<p>V-③-1-1 V-③-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>

平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<p>るとともに、危機管理機能の強化を推進する。</p>	<p>進め、教職員の受講状況や理解度を把握し、教育の受講状況を部局ごとに公表するなど、組織的に浸透させる。また、危機管理体制の強化のため、経営上のリスクマネジメントの観点から、定期的・継続的な点検を行う。</p> <p>< 監査室 > < 総務課 > < 研究推進課 ></p>	<p>V-③-1-3</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ V-③-1-3 について、<u>組織的に浸透したかどうかを、年度末の進捗状況入力の際にお教え願いたい</u> ・ V-③-1-3 について、別途確認して状況が分かったが、<u>年度末の入力時には「必要に応じ教育内容の見直しを行う」の状況を明記いただきたい。</u>（見直しの必要が無い場合もあると思われませんが、その場合はその旨を記載いただきたい）
	<p>V-③-2 情報セキュリティの維持と強化に向け、利用者の意識向上と情報セキュリティ体制の充実強化を行う。</p> <p>< 学術情報課 ></p>	<p>V-③-2-1</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省年度計画にあげた「情報セキュリティポリシーや関連規程の組織への浸透～」に係り取組みがなされていない（進捗不十分） ・ 当初年度計画であげた「検討された施策に基づき計画を見直し実施する」に係り取組みがなされていない（進捗不十分） ・ 情報セキュリティ強化の面で、毎年、数千万円の学内資金が投入されているが、どのようにして強化を図っているのか（ハード面、ソフト面）をお教えいただきたい ・ 別途確認して状況が分かったが、<u>年度末の入力時には、実施内容を列挙するだけでは無く、「優先順位を定め可能なものから」実施できたかどうかを明記いただきたい</u>